



報 窓 同 工 會

2011

校 歌

嶺は香づる磐梯山
 水は湛うる猪苗代
 これぞ乾坤香霊の
 精氣鍾り成る処

明治三十七春なかば
 礎堅くきずかれて
 星霜ここに幾かえり
 平和の覇者を育みぬ

身には白虎の粹を享け
 鶴を徽章に雄々しくも
 至誠勤勞一すじに
 進む健児の意氣高し

峙つ嶺は嶮しくも
 寄せ来る浪は高くとも
 これ奮闘の活舞台
 これで我等の天地なる

作詞 吉田智 山村彌久馬
 作曲 新潟師範学校

同窓会会員の皆様お変わりなくお過ごしのことでしょうか、皆様も大変に驚かれたことでしょうが、一月十八日手代木会長が突然にお亡くなりになり、二十一日に告別式が執り行われ、多くの参列者に見送られ盛大な中にも厳粛な悲しみに包まれ、我々同窓会役員一同落胆の極みでした、二月四日に同窓会3役会を開催し、十月の同窓会総会まで会長空席で小生が代理をすること、三月一日の卒業式に出席し、三月十一日の東日本大震災には更なる驚きと苦悩に立たされました、学校の破損は少なかったのですが、地震直後北側体育館が緊急避難場所となり、浜通り・中通りの避難者が約二五〇名避難され、避難者に三食の炊き出しをPTA役員・元役員・地元ボランティアの方々が大変な苦勞をされて行い、また避難者の警護・援助に学校の男性教員の皆さんが二十四時間当たられ本当にご苦勞様されました、避難者の方々は四月八日の入学式前には全員他の避難場所に移られ、入学式は紅白の幕も無く来賓は吉田顧問・PTA会長に小生の三名で質素な中にも厳粛に行われました。



『会報発刊にあたって』

同窓会 筆頭副会長 若狭 春生
 (昭38年黨業科卒)

今 会津は疲弊しています、地震・津波・原発事故・風評被害、放射能による被害はその限度を予測出来ず、観光会津の今後は全く先が見えませんが、同窓生の皆さん観光会津と会津の産物を率先して宣伝し求めて下さいそれが遠隔地に居られる皆様のご支援ですどうぞ宜しくお願い致します。

さて今年も十月十五日第三土曜日に同窓会総会を開催いたします、この時に来年度学校創立一〇周年の同窓会としてのシナリオを決定致したいと思います、さらに財団法人 松江奨学会の解散と新たに松江春秋顕彰会の設立も行いたいと思いますので多くの同窓生が総会に出席下さいませ様お願い申し上げます。

最後になりますが来年度の創立一〇周年記念式典・祝賀会は同窓会総会と学校祭(会工祭)に合わせたい、現在調整中です、同窓会諸兄の多くの参加と更なる母校愛、同窓会活動へのご指導・ご支援を宜しくお願い申し上げます。

平成22年度	福島県立会津工業高等学校同窓会収入支出決算書
	(自平成21年10月1日～平成22年9月30日現在)
収入総額	3,579,348円
支出総額	3,246,501円
差引残額	332,847円

◎収入の部		(単位：円)			
費目	予算額 (A)	決算額 (B)	(B)-(A)	増減	摘要
繰越金	566,316	566,316		0	前年度の繰越金
入会金	2,400,000	2,390,000		-10,000	新入生 (239名×10、000円)
協力金	700,000	620,711		-79,289	会報2009協力金 (725件分) サラト経費 (361,869円) を除く
雑収入	33,684	2,321		-31,363	決算利息、他
合計	3,700,000	3,579,348		-120,652	

◎支出の部		(単位：円)			
費目	予算額 (A)	決算額 (B)	(B)-(A)	増減	摘要
総会費	200,000	148,790		-51,210	総会関係経費
会議費	500,000	499,334		-666	各支部総会時の御祝儀、役員会
旅費	450,000	401,589		-48,411	各支部総会時の旅費
事業費	850,000	714,497		-135,503	広告代、各支部、松江興学会助成
卒業記念費	150,000	162,000		12,000	(校歌、応援歌、会工賛歌) CD代
体育文化振興会助成	100,000	100,000		0	体育文化振興会助成
もろづくり人育成支援	0	0		0	セミコンジャンパン出展への支援
会工祭助成	100,000	100,000		0	会工祭への助成
慶弔費	50,000	10,000		-40,000	香典、弔電、花環代
消耗品費	40,000	27,071		-12,929	フィルム、プリント代、事務用品
印刷費	800,000	809,025		9,025	会報印刷代 (7000部) 発送料を含む
通信費	200,000	69,278		-130,722	切手代、電話代
事務費	160,000	204,917		44,917	コピー機リース料(22年度分)
基金・積立	0	0		0	
予備費	100,000	0		-100,000	
合計	3,700,000	3,246,501		-453,499	

※ 収入総額 3,579,348 円－支出総額 3,246,501 円＝差引残額 332,847 円は
次年度に繰越し致します。

平成23年度	福島県立会津工業高等学校同窓会収入支出予算書 (案)
	(自平成22年10月1日～至平成23年9月30日)
収入総額	3,450,000円
支出総額	3,450,000円
差引残額	0円

◎収入の部		(単位：円)			
費目	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	(A)-(B)	増減	摘要
繰越金	332,847	566,316		-233,469	前年度の繰越金
入会金	2,400,000	2,400,000		0	新入生 (240名×10、000円)
協力金	700,000	700,000		0	会報2010の協力金
雑収入	17,153	33,684		-16,531	
合計	3,450,000	3,700,000		-250,000	

◎支出の部		(単位：円)			
費目	予算額 (A)	前年度予算額 (B)	(A)-(B)	増減	摘要
総会費	200,000	200,000		0	総会関係経費
会議費	500,000	500,000		0	各支部総会時の御祝儀、役員会
旅費	450,000	450,000		0	各支部総会時の旅費
事業費	750,000	850,000		-100,000	広告代、各支部、松江興学会助成
卒業記念費	150,000	150,000		0	(校歌、応援歌、会工賛歌) CD代
体育文化振興会助成	100,000	100,000		0	体育文化振興会助成
会工祭助成	0	100,000		-100,000	会工祭への助成
慶弔費	50,000	50,000		0	香典、弔電、花環代
消耗品費	40,000	40,000		0	フィルム、プリント代、事務用品
印刷費	800,000	800,000		0	会報印刷代 (7000部)
通信費	100,000	200,000		-100,000	切手代、電話代
事務費	200,000	160,000		40,000	コピー機リース料、他
基金・積立	50,000	0		50,000	創立110周年記念積立金
予備費	60,000	100,000		-40,000	
合計	3,450,000	3,700,000		-250,000	

付帯決議 科目間の流用については会長に一任する。

監査報告について

平成22年 10月4日 歳入簿・現金出納簿・

預金通帳および支出調書等関係書類を調査照合の

結果、適正に執行されている事を認めましたので

報告いたします。

平成22年10月16日

監事 手代木徳夫
監事 坂本茂男
監事 関場一宏

福島県立会津工業高等学校同窓会
会長 手代木 利夫 殿

各支部への助成

東京	10万
近畿	5万
東海	5万
若松	5万
福島	3万
郡山	3万
猪苗代	3万
坂下	3万
西会津	2万
湯川	2万
会津美里	2万
建友会	2万
電友会	2万
機友会	2万
セラ友会	2万
美修会	2万

同窓会総会



関連記事

同窓会事業報告 (2010.10～2011.9)

▷平成22年	
10月 4日	会計監査
10月 8日	第1回役員会
10月10日	会津美里会工会総会
10月16日	会工同窓会総会
10月28日	電友会総会
11月 6日	猪苗代会工会総会
11月27日	日立会工会総会
▷平成23年	
1月15日	第2回役員会
1月15日	新年会
2月28日	第3回役員会
2月28日	同窓会入会式
3月 1日	卒業式
3月 1日	卒業祝賀会
3月11日	東日本大震災
3月12日	建友会総会
4月 8日	会工入学式
4月 8日	第4回役員会
4月28日	第1回会報編集委員会
5月11日	三役会
5月26日	第2回会報編集委員会
6月 5日	東海会工会
6月10日	三役会
6月18日	東京会工会100周年式典
6月19日	近畿会工会
6月23日	第3回会報編集委員会
6月25日	会工美修会総会
7月 1日	三役会
7月 2日	機友会総会、
7月14日	第4回会報編集委員会
7月16日	セラ友会総会
7月28日	第5回会報編集委員会
8月10日	第6回会報編集委員会
8月19日	三役会
8月26日	第7回会報編集委員会
9月 2日	坂下会工会
9月 2日	会工職員クラブ歓迎会
9月 6日	第8回会報編集委員会
9月15日	同窓会会報2011発行





復興・会工魂

校長 羽二生 幸雄

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に対しご理解を頂き、さらには、陰に陽に、物心両面にわたりご支援をいただいておりますこと心より感謝申し上げます。

一月下旬に同窓会の手代木会長がご逝去なされました。本校並びに同窓会発展に尽力された方が亡くなられる事は、大変残念であります。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

そして、この度の大震災で同窓生皆様方の身内や親戚、友人や知り合いの方で犠牲になられたり、被災されたり、自らも被災された方に対し心よりお見舞いを申しあげますと共に一日も早い回復をお祈りいたします。

さて、3・11の未曾有の東日本大震災は、津波、原発事故、そして風評被害とともに四重苦をもたらしました。早いもので、震災から六ヶ月が経ちました。しかし、あの日から未だ時間が止まったままの福島県、原発事故はいつになったら解決し収束するのでしょうか。しかし、この様な状況でも、我々日本人は互いに助け合い、悲しみをこらえ、泣き叫ぶこともなく、淡々と復興に励んでいます。この姿勢こそが日本精神であり、これまでの歴史の中で多くの困難を乗り越えてきた内に秘めた力なのかもしれない。とは言っても、今、我々の目の前にある現実には先の見えない世界経済であり、そこから見えてくる雇用不安であります。そして、今回の大津波による影響は世界経済を激震させ、これまで経験したことのないほどの影響が懸念される状況となりました。

今、日本の製造企業は東北のこの忍耐と根性を持った優れた人材を望んでいます。すなわち優秀な会工魂を持った本校生のもので、しかるに我々会工教員は、ものづくり教育を通して生徒一人ひとりに「生きる力の育成」を図り、具体的な教育実践を通して地域社会の未来を担っていく心豊かで逞しい生徒、さらには国際社会の中で活躍できるエコマインドを身に付けた至誠勤労・文武両道の精神を持ち合わせた工業技術者の育成を図り、これらを実現するために教職員ひとり一人が、安全・安心な学習環境をつくり生徒達に勇気と希望を与えられるよう高い倫理観と使命感を持って教育にあたっております。

ところで、本校は来年度に創立110周年を迎えることとなります。福島県下初の工業高校として明治37年以来、今日まで発展してきたのも、産業界をはじめとして、多方面でご活躍される皆様のご支援ご指導のおかげと感謝申し上げます。記念行事等に関しましては、色々と協議をしたところで、すが、昨今の社会情勢を鑑み、百周年のように盛大ではなく、内容を簡素化した形で執り行う事で進める所存でありますので、何とぞご理解の程をお願い申し上げます次第であります。むすびに、同窓会の皆様には、本校発展のためなお一層のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます、会工同窓会の益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念し、ご挨拶と致します。

←昭和35年の校舎



現在の校舎→



会工同窓会の歴史のうち、6、全国に飛躍の会工同窓会体制確立（昭和29（54年）期の10（14代）の3人の会長と当時の活動について

会工100年史編纂委員
江花 光泰

東日本大震災および福島第一原発の事故に被災された多くの方々には心よりのお見舞いを申し上げます。原発事故で史上最悪の事態をむかえております。一日も早い収束で子々孫々への影響を極力少なく出来ますよう祈っております。

さて本号では昭和29年から54年までのおよそ四半世紀にわたった「全国に飛躍の会工同窓会体制」についてまとめてみたい。戦後も早や66年、昔を知るのには難しいものである。学校が発行した50、60、70の各記念誌、会工同窓会が発行した「会報」と「東京会工会誌」を中心に学校資料、市町村史、新聞、子孫の方々のお話、ホームページの記録からたどってみた。

今回、貴重な資料を提供いただきました本会顧問吉田一栄氏と、いつものことながら資料収集にお力添えいただいている会津図書館職員の皆様には心よりの感謝を申し上げます。

意外に「会工同窓会史の概略」が読まれていないかに受け取れるので再録します。

会工同窓会史の概略

0、同窓生の誕生（明治28（39年）

明治37（1904）年4月15日入学式。翌年第1回卒業式。卒業生は若松市立漆器徒弟学校から編入の漆工科生12名が福島県立工業学校、本校初の同窓生となる。

1、福工同窓会の創立期（明治40（大正9年）

明治40（1907）年3月25日 第3回卒業式、県立工業

学校第1回入学生卒の卒業にあわせて、福工同窓会創立総会。旧本郷村立窯業徒弟学校、旧若松市立会津漆器徒弟学校卒業生も会員とする10条からなる会則を制定し、初代会長に下山又次郎校長、副会長島居準太郎先生。以後校長が同窓会長となる。大正14年2代会長金子篤寿校長となる。

2、学校支援の福工同窓会、体制確立（大正10（昭和6年）

大正14（1925）年6月 3代会長正木遊方校長、副会長常木新蔵先生昭和5年まで。初の同窓会報1号を発行した、名簿主体のものである。終身会員制度を設ける。

3、学科増設・学校づくりの会工同窓会（昭和6（16年）

昭和6（1931）年7月 4代会長井口直次郎校長
昭和13年1月 5代会長高橋清章校長、副会長に北村丘先生、河野幸男先生、大村九十九氏、理事長に佐藤伝十先生とある。戦前最大の同窓会となる。

4、戦時中戦争直後、活動停止の会工同窓会（昭和17（21年）

昭和18（1943）年5月31日 6代会長河野幸男となるが、同窓会機能はほぼ停止していた。

5、戦後の混乱期を立ち上げる新生会工同窓会（昭和22（28年）

昭和22（1947）年7月13日 初の公選制となり同窓生の中から会長を決め7代会長に中川源三郎氏、副会長秋山寛二氏、佐藤伝十氏 8代会長田場川広喜氏、9代に秋山寛二氏である。

6、全国に飛躍に会工同窓会体制確立（昭和29（54年）

昭和29（1954）年5月22日 10代として新理事長に、昭和49年13代会長吉川省氏となる。
〃、10、10 11代理事会議長に佐藤勝次氏、総会開催

地を全国の各地区持ち回りとした。昭和51年14代会長に佐藤勝次氏を選出。

昭和33、5、25 12代として理事会議長に新田義一氏を選任する。（ただ後述するが次の会長が49年からのので16年間務めたように見えるが実際は9年くらいで、この期間を常務理事が務めたのではないかとと思われる。調査を進めた）

7、会工同窓会本拠地会津若松市に定着（昭和55（平成23年）

昭和55（1980）年4月22日 15代会長吉田一栄氏選任される。
平成15（2003）年10月 16代会長に梅津正夫氏を選任する。
平成20（2008）年10月 17代会長に手代木利夫氏を選任し精鋭尽力されたが、23年逝去された。

平成23（2011）年1月 会長代行として副会長若狭春生氏が引き継ぎ、現在に至っている。

第2次大戦敗戦直後の国民生活と工業学校

戦後の日本と国民は極端な生活困窮のなかにあった。戦時中、学校の一部が扶桑2256部隊の駐屯兵舎、あるいは日立製作所の学校工場として校舎の床は剥がされ潜水艦搭載の小型発電機づくりが進められ、校庭は防空壕が掘られ、米・野菜づくりがなされていたため学校に戻った生徒たちは、校舎の手直しと現存する「昭和7年会工」と刻み込まれたあの石のローラーを引っ張りグラウンドの整備を進めた。
余談だが学徒動員で授業はなし、いわきの品川白煉瓦工

場に働きほんの些細な手当てが出て、半分は学校に積み立てたはずだったのだが生徒への返還はついになかった。(とは、本会報2009年号を読まれた大先輩のお話だ)

学校建て直しに先生も生徒も尽力した。学制改革で中学校から高等学校へと替わるのだが学校を支える車の両輪として新たに組織されたPTAとともに同窓会も尽力した。

戦後の同窓会活動と歴史ある本校創立50周年

戦前の昭和10年頃からの同窓会活動を支えた中川氏、秋山氏らの先輩方は電気科・機械科の増設運動、校庭の拡張運動を展開して福島県や若松市行政に働きかけ、ついには松江春次氏や鈴木善九郎氏の義挙を生み出した。

また戦後の混乱期の最中の昭和22(1947)年7月には98名の総会を開き7代目の同窓会長として中川源三郎氏を選び、昭和23年では田場川広記会長を初め59人の役員で構成され、各人の住所は市町村名のみ掲載したがこの原本には住所の役番も記載されている。ついで24年からの秋山寛二会長時代の役員もすべてが会津在住の方々であった。誰しもが戦後の食うや食わずの時期である。したがって活動も限定されたものであったの言うまでもない。(この部分は会報2009号に報じた)

前にもふれたが最新の「同窓会会員名簿」(2007)刊に、同窓会歴代会長に「佐々木實校長時代」と書いたり、昭和28年5月5(3)日の東京会工会再建総会を「戦後初の会工同窓会総会開催」などと未だ書き誤るのは困ったものである。ちなみにこの年5月5日は若松会工会設立総会の日である。平成16年(2004)刊の「会工100年史」には正確に記載されているのだが、近じか刊行される110年記念誌・会員名簿では歴代会長名とともにしつかり直して行きたい。

昭和25年からの朝鮮動乱を契機に日本経済は大きな進展の足がかりを見せた。全国同窓生は徐々に活動の場を、中でも東京在住同窓生は経済の中心地での復興もめざましかった。折しも本校では7代目佐々木實校長が全国工業高等学校長協会の理事として東北地区を代表し中央で東奔西走し工業教育の重要性が叫ばれて、昭和26(1951)

年にはついに「産業教育振興法」が公布され、翌年から国庫補助が開始された。本校には29年度までに1481万円の補助を受け各科の施設設備は拡充強化されつつあった。再記は避けるが「会工100年史」年表、昭和28、29年の項を読みあわせて頂くと良い。同時に全国工業高校の中で輝く歴史を持つ本校の創立50周年を迎える時でもあった。

日本経済発展と本校の学科、生徒数大幅增加、会工同窓会「全国体制」の進展が全く一致する

戦後の日本は昭和25(1950)年朝鮮戦争による特需景気29(1954)年の経済の高度成長 30年代の神武景気34(1959)年の岩戸景気、国民所得倍増計画、41(1966)年のいざなぎ景気と続き、50年代まで経済高度成長期といわれ後に「バブル」と呼称されたこともあるが夢のような発展期が続いた時期である。

本校校舎の増改築についても昭和36年の1期から45年の8期工事まで、産業教育振興法による設備設置は昭和27年から陸続と続いている。卒業生数で見ると昭和29年度から300名の大台に乗り41、42、43年度は500名(在校生数にするとその3倍)となる。54年度までは400名を維持し、学科も最大14を数えている。全国屈指の大規模工業高等学校に育つのだが、近い将来を見通した時に、学校としても全国規模での同窓生の強力なバックアップが欲しかったのではあるまいか。

そこで登場したのが佐々木實校長を名校長の誉れ高いと表現している「東京会工会」の主力メンバーによる会工同窓会の運営が始まるのである。

「全国に飛躍の会工同窓会体制」の仕掛け人とその経緯

東京会工会の戦後初の再建総会が昭和28(1953)年5月3日に代々木文化会館で開催された。さらに1年の期間をへて翌29年の6月6日、東京会工会の春季総会が161名の出席者のもとで東京上野精養軒で盛大に開催された。この日の総会後に学校からの申し入れで懇談会が設定されていた。学校側が佐々木實校長、同窓生でもある大竹五郎窯業科長、菊地蔵電気科長と若松在住の吉川省東京会工会顧問と東京会

工会の常任幹事13名であった。学校からの要請は「時代に鑑み全国を見渡した強力な同窓会活動」を望むものであった。その一案としてまとめ役の大役は吉川さんに、学校の同窓職員、若松会工会役員も了としており東京の皆様の大きなご支援があれば幸いだというものであった。

ここに至る途中経過が長いのだが吉川氏も了承し、帰若するや直ちに全国協議会の計画立案に入り、同月27日にはまたこの上野の精養軒に全国同窓生を代表し42名が出席して「会工同窓会全国協議会」が開かれ新しい体制づくりの準備に入った。ここでの決定事項の合法化をはかるため、翌月7月4日には本校講堂に臨時の同窓会総会を開き出席73名、委任状1357票をもって開催した。

主たる議題は1、同窓会の再建強化 2、新会則の制定 3、50周年事業資金の募集 4、前秋山会長他役員辞任承認であるが、原案賛成1429 反対1の絶対多数をもって可決し、合わせて取りまとめ役として東京福工会で23年間にわたって幹事長を務めた吉川省氏(明治44年染織科第5回卒業生)を正式に理事長として選んだ。この期間は昭和29年7月から10月までとわず4ヶ月の短期間ではあるが吉川氏を中心に大変な変革をなし遂げていったのであった。

組織の中心になった同窓生

可決された新会則に従って役員は各地区会工会よりの推薦を受けておおむね定まったことから、29年10月10日に東京上野の精養軒で133名の出席で会工同窓会総会を開催し、会を代表する常務理事に佐藤勝次氏を選んだ。それから25年、四半世紀にわたって吉川省氏、佐藤勝次氏、新田義一氏を中心とした会工同窓会の運営がはかられて全国に羽ばたく同窓生の力を結集し飛躍的に大きな力で学校を支援した。PTAとともに本校創立50、60、70周年の記念事業が進められたことは皆様ご承知のことである。

次の方々が全国同窓生同協議会出席者、同窓会云新規約案(東京原案)原本はB4ザラ紙に黒インクガリ版刷りである。

- 會工同窓会(會工同窓会聯合會) 會則 (東京案)
- 第一章 總則
- 第一條 本會は會工同窓会(會工同窓会聯合會)と称し事務所を會津工業高等学校に置く。
- 第二條 本會は會員相互の親睦を圖り且つ母校の發展を期するを以て目的とする
- 第三條 本會は随時、會報及會員名簿を發行して之を會員に配布するの他懇親會の開催、母校在學生の福祉に資する母校事業の援助等本會の目的を達すべき事業を行ふ。
- 第二章 會員
- 左の資格を有する者は總て本會員の會員とする。
- 一、元本郷町窯業徒弟學校。元若松市立會津漆器徒弟學校、元福島縣立工業學校。
- 元福島縣立會津工業學校、福島縣立會津工業高等学校、福島縣立第二高等学校、の各科卒業生。
- 二、前項各科の何れかに在學せし者にて理事會の承認を得たる者。
- 第五條 左の資格を有する者は本會の特別會員とする。
- 一、第四條第一項記載の學校の教職に在りし者並に現教
- 二、本會の特別なる緣故者にして理事會の承認を得たる者。
- 第三章 役員と選舉
- 本會に左の役員を置く。
- 一、理事 二十名以上
- 二、常務理事 五名以上
- 三、監事 三名以上
- 四、代議員 五十名以上
- 本會に顧問を置くことが出来る。
- 一、母校々長を顧問に推戴する。校長在職中は總ての會議に出席して意見を述べることが出来る。校長欠席の止むなきとき校長次席を以て代理させる事が出来る。
- 二、本會の功勞者を顧問に推戴する時は理事會の

- 推舉と總會の承認を要する。
- 第八條 理事會は本會を總理し且つ運営に任ずる。常務理事は理事會を代表して平常の會務を擔當処理し監事は本會の事務並に經理を監督する。代議員は本會と會員の連絡に任じ事務に協力するものである。
- 第九條 役員は各地域別に組織せられある同窓會よりの推薦者中より總會に於て選任する。
- 一、地域同窓會より推薦を受くる役員候補者数は所属會員約百名毎に理事候補者一名、所属會員約三十名毎に代議員候補者一名の宛推薦、常務理事は理事候補者中より一名以上、監事は代議員候補者中より一名以上の推選を受けるものとする。
- 二、地域別同窓會を持たない地方の會員は夫れ夫れ會議を開いて前項に準じて推薦を受け推薦不能と認められたる場合は理事會に於て推薦する。
- 第十條 役員の任期は二年とする。補欠者の任期は前任者の残存期間とする。
- 第四章 會議
- 第十一條 會議は總會、理事會、常任理事會、代議員會の四種と定める。尚本會の目的達成のため必要と認めたるときは随時各種の委員會を理事會或は總會に諮りて設ける事が出来る。
- 第十二條 總會は毎年一回開催する。又随時開く事も出来る。總會は特別の事情無き限り毎年開催地を変更する事。
- 第十三條 理事會は随時之を開き本會の運営に任ずる。
- 第十四條 常務理事會は随時之を開いて一般の會務を審議執行する。
- 第十五條 代議員會は代議員の十分の一以上又は監事の過半数の要請ありたるとき開く。
- 第十六條 會議は議長正副二名以上を選任し會を司會する。
- 第十七條 會に出席する資格ある者は、同一資格者欠席の場合合欠席者の委任に依り議決權の代理行為が出来る。
- 第十八條 議事は會員の過半数の議決に依りて決定する。
- 第五章 會計

全国同窓生 同協議会出席者名一覧 (順序不同)

代表地区	勤務先	氏名
大阪地区	大阪染工(株)	明・41・染 佐藤平蔵
伊丹	同右	大・12・工 佐藤正雄
京都	日東紡(株)・伊丹工場	大・12・染 長沢興学
名古屋	倉敷紡績(株)	昭・3・染 馬場忠
静岡	鈴木時子(株)	昭・5・窯 佐々木忠平
茨城	大同毛織(株)	昭・9・工 今井澄
岩手	東亜燃料(株)	昭・13・工 郡司五郎
新潟	日立製作所・日立工場タービン設計課	昭・17・機 岸鹿三
福島	同右 多賀工場 硝子課	昭・11・窯 武藤陽造
仙台	富士製鉄(株)・釜石製鉄所窯業課	昭・20・窯 高橋民雄
新潟	岩手窯業鉱山(株)・宮古工場	昭・12・工 山口善十郎
福島	北越製紙(株)・沼垂工場	大・44・染 森川盛義
郡山	森川組	大・9・工 熊坂金次郎
喜多方	三菱電機(株)・郡山工場	大・8 渡部文
川俣	田代染物工場	昭・13・染 田代喜伊市
小名浜	日本水素(株)・小名浜工場・硫酸課	昭・6・工 千葉吉郎(朗)
大寺	呉羽化学工業(株)・錦工場・肥料課	昭・6・工 鈴木敏夫
喜多方	日本曹達(株)・会津工場・分析課	大・11・工 鈴木源一
田代	昭和電工(株)・田代工場・苛性課	昭・4・工 玉木義正
喜多方	同右	昭・17・工 武田薫
喜多方	耶麻郡熱塩町 山形屋旅館	大・13・染 瓜生(広木)秀吉
喜多方	喜多方市 漆器業	昭・21・漆 高畑熊男(夫)
喜多方	日曹製作所・若松工場	昭・17・染 田沢耕吉
喜多方	同右	昭・20・工 大波静夫
喜多方	東京電力(株)猪苗代電力所	昭・13・染 五十嵐美伸(中)
喜多方	同右 吉川陶所所長	大・4・窯 岸庄輔
喜多方	若松市役所農政課	昭・16・工 上野貞夫
喜多方	若松市愛宕町	明・44・染 吉川(鈴木)正
喜多方	同右 行仁町	昭・40・漆 田中清八
喜多方	同 栄町 会津工業高等学校	昭・4・染 菊地徹
喜多方	同右	昭・16・機 貝沼
喜多方	同 同松尾染料商店	明・40・染 植村寅生
喜多方	同 同松尾染料商店	大・8・染 佐藤勝次
喜多方	同 同松尾染料商店	明・42・染 海山勝世
喜多方	同 同松尾染料商店	大・8・窯 新田義一
喜多方	同 同松尾染料商店	昭・8・漆 酒井白澄(利雄)
喜多方	同 同松尾染料商店	昭・10・工 穴澤忠善
喜多方	同 同松尾染料商店	昭・17・工 中田宏司
喜多方	同 同松尾染料商店	昭・25・電 岸文夫
喜多方	同 同松尾染料商店	明・45・染 渡部好藏
喜多方	同 同松尾染料商店	昭・3・窯 石原喜義
喜多方	同 同松尾染料商店	明・45・染 高瀬三郎

第十九條 本會の経費は毎年卒業の新入會員の入會金と會員の寄附金に依るものとする。

一、新卒業生の入會金は一人宛金參百円とする。

二、寄附金は理事會の議決に依り集収する事が出来る。

第二十條 本會の收支豫算並に收支決算は毎年の定時總會に報告して承認を得ること本會の會計年度は毎年四月一日より翌年三月末日迄とする。

第二十一條 本會則の変更は理事會の承認を得て總會に附議しなければならない。

第六章 附則

以上

昭和廿五年六月廿五日記

新規約原案の作成者とし新システムの構築

提起された同窓会新規約案はどの資料にも「東京原案」と書いていますが、もし踏み込んでみると東京会工会の幹事長であった佐藤勝次氏の手になるものであることが読める。

同窓会誌「会工会誌創立五十周年記念号」には同氏の文章で「常任幹事（東京会工会）の若い連中に構想を話し大賛成を得たので逐条文字に表し、植村寅生会長（東京会工会・染織第一回卒業・東大法科卒）に批判を乞うたところ大体よろしい」と言ったお墨付きが得られ提案に至ったものらしい。

原案での要点は1、全国組織を意識し（会工同窓会連合会）と表現し 2、役職に理事20名、常務理事5名、監事3名、代議員70名の4役を置き、常務理事が会務の処理をする 3、役員数は地域同窓会100名につき理事候補1名30名ごとに代議員候補1名とした 4、会議は總會、理事会、常任理事会、代議員会の4つ 5、總會は年1回とし開催地を変更（持ち回り）とする 6、新卒業生の終身会費をやめ入会金300円として、など6章21条からなる案であった。

同「五十周年記念号」には採択された会則が掲載されて付け加えられたところがある。1、同窓生は居住、就職地の地域同窓会（会工会）に入会所属する 2、地域同窓会は會員1名につき年10円を維持費として（本部同窓会に）拠出する

新体制後の總會開催地と地域・職域会工会

總會は規約に従って開催地を代えて、それぞれの地域同窓会の總會に続いて開催した。

昭和29年には東京 以後30郡山 31東京 32会津本郷 33東京 34福島 35東京 36京都 37東京 38若松 39名古屋 40東京 41東京 44若松 45東京 と55年の本拠地（会津若松）に定着の時まで各地の同窓会を強化しながら進めてきた。

地域・職域につくられた会工会を昭和40年度の資料により地名を挙げてみると東京、近畿、東海、清水、日立、多賀、新潟、福島、郡山、若松、湯川、西会津、喜多方、塩川、磐梯、河東、両沼西部、本郷、南会津東部など19に上る。

職域では東芝鶴見、東芝柳町、東芝電興、東芝炉材、東芝化成、東芝堀川、東芝府中、日本鋼管川崎、北辰電気、日本電気玉川、日本無機繊維、明電舎、千葉光学ガラス、保谷硝子、北芝電気、沖電気、東北電力若松、会津若松報話局、若松消防局、会津若松郵便局、会津乗合バス、会津若松市役所、玉川機械金属、会工高、会二高、国鉄磐西線管理所、国鉄郡山、郡山専売公社、日本ライヒホール、極東染色、井上染色、小糸製作所、東亜燃料、保土ヶ谷化学、三菱電機、三菱化成、黒崎、三菱鋼材広田、川崎製鉄千葉、日本化学郡山、日本化学三春、東亜燃料、日立製作所那珂、日立製作所国分、日立製作所水戸、日立化成下館、日立工機、呉羽化学鋸、日本水素小名浜、品川白煉瓦湯本、川崎製鉄千葉、富士製鉄金石、日東紡富久山、日本曹達会津、昭和電工鹿瀬、昭和電工喜多方、昭和電工東長原、東京電力猪苗代など58がある。

理事会議長制から会長制

会工同窓会のトップが「理事会議長」から「会長」制度になったのは何時であったのだろうか。80周年記念誌「同窓会今昔」によると昭和45年、46年に会則の簡素化をはかり、規約改正の賛否を問うが「当分の間現行のまま」とされており、49年には吉川氏が「会工同窓会会長」と記載されているところから見るとこの間に現行制度に近い「会長制度」になったものらしい。

もうひとつの不思議、新田義一氏のお名前が昭和43年を境

3、新たに「理事会規程」が設けられて議長、副議長各々1名選出とし 4、理事会は「議長文書」で議題を示し賛否を問う方式が定められ、理事20名が全国に散らばっている、確かに理事会は機能する方策が考えられている。

新体制理事会は議長文書で開催

ごく最近になって見つけたが、若松会工会の会員住所調査に使われたメモ用紙（吉川省氏から学校事務局菊地巖先生あてのペン書き文書）のコゲ茶色になったB5ザラ紙の表面には、黒インクガリ版刷りの「理事会議」昭和30年2月19日付けの通知文書（要点のみ記載）がある。

「1月28日附文書回議箋 議案1, 2, 3号（ともに）原案通り決定 回答者18名全員異議なしの署名回答に接し異議ないものとして処理いたしました。……理事会議長佐藤勝次……とある。（お忙しいところ申し訳ないが、返答は必ずお願いしたいと注釈あり）」

同紙上に 事務局よりお知らせ 1、大正9年化学卒田同窓会会長中川源三郎氏2月8日自宅に於いて急逝され会より謹んで弔意を……2、母校卒業式3月3日式後新入会員歓迎会……3、（生徒の）就職斡旋状況容易でなく内定50%困難、先輩各位のご高配を……としていた。

筆者（江花）も昭和31年3月の卒業生であるが、同級生の平野昭一君とともに「赤いランプの終列車」で東京の零細企業漆器家具店に就業した。この文書の年、30年10月の東京会工会秋季総会に生徒代表の一人として参加し「上野精養軒」とはすごいところで会議を開くんだなと田舎育ちの生徒の心に感動がみなぎった。東京って大都会はやっぱりすごいと思った。その頃の事だ。

こうした理事会議長文書と言ったものを昭和41年度の例で見ると、母校増改築決算報告承認の件、昭和40年度会務報告、決算の件、理事会議長副議長選出の件、42年度總會開催地の件など重要事項が7回出されて協議されている。一同が会としての理事会（役員会）の記録は見当たらない。

もう一点、昭和51年10月20日付けの「全役員会」開催の通知文書（要点のみ記載）がある。

文書による会工同窓会役員会を開催……

にして出てこなくなる。昭和41年の60周年記念誌や42年の「会工会報」には理事会議長として「母校増改築を顧みて」天体ドームの見える四階建本館の完成写真が飾られ、36年からの校舎・体育館の建設状況、寄付金決算報告、記念式典、記念事業が書かれて、新田氏が産業教育振興会中央会功労者として表彰を受けたことが掲載されるのだが、49年からの吉川会長になるまでの間は当然名前が出なければいけないのだが「70周年記念誌」にもなし、同窓会を代表して若松会工会大竹巖氏が祝辞を述べている。吉川、佐藤両氏は切れ目なく同窓会史に名が出るのだが、新田氏の場合は記録にもない。

昭和56年に至り元校長の菊地氏の逝去で会工同窓会顧問として出席されているが、今のところ判らない。昭和42から49年までは常任理事（団）としての運営であったのだろうか。もう少し資料を探してみたい。

全国に飛躍の会工同窓会体制（昭和29～54年）

10・13代吉川省氏について

昭和29年に会工同窓会10代として新理事長に就任し新体制の構築に尽力した。昭和49年には13代会長として吉川省氏が就任した。

吉川氏は若松市愛宕町18（現在の宮町5-14）に生まれ、若松市立行仁小学校から志あり本校県立工業学校染織科に進んだ。明治44年に卒業（第5回卒業生）するがこの年は特段に成績優秀な方が多かったのかこれまでになくほぼ全員の21名の卒業を見ている。

大正2年には「兵隊には一度行ってみたい」と甲種合格の印を貰い1年の志願兵として若松連隊に入隊した。その後どこに就職したのか記録は見つからないが、大正5年に同窓会の事務を担当し校友会・同窓会誌の「福工誌」第2号の刊行にかかわり原稿の収集、編集、表紙は星武四郎先生のデザインで石版刷りとしたが、寄稿原稿の印刷を上一之町⑥佐藤活版店に頼み込んだが、前々年の第1号の印刷費未払いがあったため70円余りの未払い金をご好意で棒引きにしてもいい、労苦してようやく発行できたことやこの第2号の発行後渡鮮

（吉川氏は昭和49年11月10日の總會で決定され会長を快諾されたが）議題は吉川会長辞任の切望につき次期会長決定の件

御投票返書には所属会工会、役職、姓名を……返書なき場合会長辞任に賛成と看做します。

右 会工同窓会会長吉川省 右 吉川会長より代理委任された会工同窓会会長佐藤勝次氏（原文のまま）投票用紙の様式があり。

会工同窓会役員会開催の結果報告
投票用紙270通（を送付した。代議員を含んだ役員全員か？）

転居不明・受け取り不在で返送 17通
意思表示なき者総数 163通

明確投票数各被撰者別表
佐藤勝次78票 大竹五郎、石原喜義、菊地巖各1票
事務局一 任12票 計93票

これを受けて佐藤勝次氏から「就任承諾書」が出されて（適格者表れた場合は直ちに退任……）と付言している……こういった決め方もあった。

新体制の役員と財政

昭和41年度の役員名簿を見ると顧問には鈴木善九郎、佐々木實、吉川省氏など19名、常任理事には佐藤勝次、新田義一、井上真市氏ら12名、理事には古川泰章、唐橋国八、大竹巖氏ら23名、監事には小滝彦市氏ら7名、代議員には東京地区から小林義隆氏ら62名、若松から八つ橋次郎氏ら25名、近畿からは若林精二郎氏ら7名などそれぞれ地域会員数にあわせて選出され総計128名となっている。

同じく昭和41年度の決算書を見ると入会金256500円（506名×500円）維持費67514円（6751名×10円、東京1640名、東海185名、近畿172名、若松2379名、喜多方本郷ほか2375名）と備考欄にあり若松の会員数の割合にしては代議員数が少ないなど一致していないところがある。その他、雑収入として校舎改築期成同盟会の好意による銀行利子として450000円が決算されていた。

したため3号は出せなかったと「会工35年史」に書かれている。本校の「助手」を務めたように書かれた東京会工会誌もあるが、学校の公的記録簿と同窓会会員名簿旧職員欄にも見当たらない。この時期のことを言っているのかもしれない。

その後、磐城富岡の羽二重工場に働きのち、上京したのは大正6年頃で当時東京には2、30名ほどの同窓諸氏が集まり、ここから「東京福工会」にかかわりこの年の二代会長石井松次氏（第3回卒業生）の時に幹事長に選出されて昭和15年までつとめている。この間東京福工会の会則制定にも尽力した。第1回卒業生の植村寅生氏、第3回卒業生の三代会長押山藤蔵氏等との交流がこの時期から始まっている。こういったことから同窓会活動に精通しておられた。

昭和14年の記録によると東京府下滝野川区滝野川町867に住まいし、パッキング（包装資材）製作工場を経営した。19年5月には戦時時局混迷を深めてきたため社業を従業員に任せて、血氣盛んなものであったらしく50才にして陸軍に志願応募した。孫に当たる今野浩さんのお話によると内地に配属されたようであった。

終戦後は郷里若松に戻り自宅で貸車（リヤカーのレンタル）業、貸本業を経営した。愛宕町内会や同窓会でも「直情径行型で竹を割ったような性格のサムライで、恐ろしく責任感の強い人だった」とは良く知る人の評である。会工同窓会60周年記念事業実行委員長 校舎増改築募金委員長（伊関秋雄校長の頃）副委員長には佐藤勝次、新田義一両氏が勤めた。のち新田委員長となり1500万円の募金が達成されている。

晩年の冬場には会津より気候温暖な東京都北区赤羽町6丁目15-13で次女の神永フサさん方に出かけることが通例となっており、昭和52年3月静養中にこの地で逝去された。83歳。

11・14代佐藤勝次氏について

昭和29年11月に11代理事会議長、51年には14代会長に佐藤勝次氏を選出された。

佐藤氏は明治35（1902）年1月23日、本県河沼郡廣瀬

村大字三谷字谷地347番地（現会津坂下町廣瀬）父佐藤吉三氏の2男として出生した。大正4（1915）年廣瀬尋常高等小学校の職員室の前に張りだされた大きなポスター「工業学校生徒募集」の張り紙「工業奨励のため月謝免除」を見て進学したという。3倍強の受験者のなかから染織科34名、漆工科窯業科ともに15名の64名の合格者であった。中国山東省、朝鮮、岩手県人も県内では川俣、三春など会津以外のものが30余名在学した。大正6年には応用化学科増設を期に月謝免除廃止、制服制定となったが8年に染織科卒業まで、月謝免除、制服和洋服自由のままであった。この当時も染織科には染色部と紡織部とがあったが入学志願前から自立しやすい「染色」と決めていたという。

この年大正8（1919）年4月3日に故郷を離れて上京、東京中央区の染料問屋松尾忠左衛門方に25円の月給とりとして技手の職に就く。同年翌月の5月に金田六郎先輩に連れられて本郷3丁目の「江知勝」という牛鍋屋に開かれた東京福工会に参加したのがそのスタートである。昭和4年の同窓会報によると東京市下谷区谷中初音町4-185に住まいしたとある。

以来、染料を中心とした製造販売の㈱松尾商店に長く従事したが、東京福工会にかかり昭和16（1941）年11月の定時総会では5代目会長に植村寅生氏、幹事長に佐藤氏が選ばれ東京会工工会事務所を勤め先の日本家庭染料㈱（後に松尾商店に合併）においた。

戦争激化によりどの企業も田舎への疎開が相次いだ、松尾商店も昭和19年に会津坂下に会社ぐるみで疎開生活をした、昭和20年には本社、倉庫など戦火に焼失した。

戦後の21（1946）年10月23日に上京し、幾多の困難の中に会社再建を果たし同社の代表取締役社長となり、板橋区に志村工場、舟渡工場、埼玉に八潮事業所を設立して事業を拡大し、43年に大松産業㈱に社名変更し広く工業薬品の取り扱いも始める。翌年には神田に本社ビル、染料助剂メーカー栄化成の設立、日本橋本町に地上10階の賃貸サトービルとビル管理会社を設立するなど、学校で学んだ染色技術を基本に企業経営を図られた。

昭和56年11月10日80歳で逝去されるが、同社は東京都千代田区神田美倉町1番地（ここには東京会工工会や本同窓会会長職の事務担当をした秘書役で嫁にあたる喜多方出身の柏木さんも元気で居られる。ごく最近転倒して骨折されたかに伺いましたが早い回復を祈ります。）で隆盛に営業し、ご子息佐藤栄一氏、現在はお孫さんの佐藤勝也氏が代表取締役として事業を引き継いでおられる。

一貫して窯業関係に携わられたことはご本人の著作「私の歩みの跡」に詳しい。

終戦後は日立出資の㈱日の出商會、日製産業から、㈱三菱電氣商會代表取締役となり東京都世田谷区太子堂町230番地に居を構えて日立の家電製品の販売に取り組み、同店若松支店を七日町211番地（映画館銀座座向）に開設した。

会工同窓会に関わられたのは終戦後である。29（1954）年に本校講堂で開かれた臨時の同窓会総会に東京会工工会の佐藤氏らの呼びかけで参加したのが今泉勲、中田宏司、青柳啓治、佐藤勝次の各氏とご本人新田氏の5人でそれがスタートと思われる。

12代新田義一氏について

昭和33年5月12代として理事会議長に選ばれた。新田氏は明治33（1900）年8月10日大沼郡本郷町瀬戸町3179番地に出生、大正3年本郷町立尋常高等小学校一年を終了した時点で事情あって二次次には父親のところ京都市大和路東入り桜町に移って京都市立第二高等小学校に転校した。会津のズウズウ弁とアクセント違いにはホトホト苦

労したという。なんとなく気品の高いあの姿勢はその頃に培われたのかと思われる。小学校卒業後は父親が経営した京清水焼の手伝いをしていた。当時、京焼には尾濃、加賀、会津などの優秀技術者が集い、会津は花瓶・土瓶など丸みを帯びた袋物の製法を特技としたという。父と同じく清水焼に居られた本郷嘉市氏（本郷窯業徒弟学校卒業）も会津に帰られて大正4年から本校窯業科のロクロ教師となり、入学者が少ないことから勧誘を受けて大正5年には本校窯業科に進学した。上級生の二年生3名、最上級生三年生が2名であった。この頃バス、汽車もなく未暁3時半に起床して、前夜母が作ってくれた朝昼二食分の弁当を持って冬の雪道を草鞋履きで通学したという。

卒業後の大正8（1919）年には本郷町の岩淵製陶㈱（会津得子の前身）に就業のち品川白煉瓦㈱平工場、京都府松風工業㈱をへて、昭和4年㈱日立製作所に入所した。16年から終戦まで朝鮮仁川府日立工場に勤務し、中途採用ではあるが「日立」に就業したことは大きな誇りであるように思える。

昭和33年5月12代として理事会議長に選ばれた。新田氏は明治33（1900）年8月10日大沼郡本郷町瀬戸町3179番地に出生、大正3年本郷町立尋常高等小学校一年を終了した時点で事情あって二次次には父親のところ京都市大和路東入り桜町に移って京都市立第二高等小学校に転校した。会津のズウズウ弁とアクセント違いにはホトホト苦



東京会工会100周年記念総会

東京会工会 東京会工会二〇〇周年 総会を終えて

幹事長 五十嵐 昭夫
(昭35A卒)



一〇〇周年
事業として、母
校に「〇〇本
の桜植樹、記
念誌の発行、記念式典、開催を
掲げ活動を進めてきました。記
念誌もほぼみとおしが着きはじ
め、いよいよ記念式典の開催準
備の段階に入りました矢先、突
如として東日本大震災が発生
し、臨時役員会を開き、この日
本全体が自粛ムードのなかで、
記念誌だけは発行しようという
ことになった式典はいかがなも
のかと議論をかわしました。中
止という意見もありましたが通
常の総会だけは行おうと結論に
なった震災直後より世の中がや
わらいできて、みんなで元気を
取り戻そうと行事も復活して来
た中で、当初の式典での記念講
演は外部から招く予定でありま
したが、堀雅宏常任幹事（元横
浜国立大学教授）にお願いする
ことになりました。式典中止、
自粛総会にもかかわらず、会津
より同窓会若狭副会長、吉田顧問、山野教頭、幹部の方々、若

松会工会、坂下会工会、建友会、電友会、機友会、セウ友会、美修会、二〇名もの大勢の方々にバスをチャーターして参加をいただき、思うようなもてなしも出来ないままに心苦しく感じましたが帰りのバスの中でも余宴で盛りあがって帰られたとお聞きまして安心しました。また遠路近畿会工会渡部名誉顧問、星東海会工工会会長ありがとうございました。この誌上をおかり致しまして、衷心より厚く御礼申し上げます。

自分は在校時代三年生のHR長のみが東京の上野野軒の同窓会総会に行けることになった。卒業直後上野野軒で同窓会に出席しましたが、右を向いても左を向いても大先輩達だけで、同級生、同年輩の人もみあたらずその後は出席しませんでした。

一〇〇周年記念誌の第六章、平成時代の組織再成復活に掲載されていますが、五十嵐先輩が浦和の斉藤工業（株）に卒業生二十三名が在籍されているというところで、会社に何度も訪ねていただいて、五十嵐先輩の熱意に打たれ参加し、浅草ニューオータニ二会館での記念総

会に校歌の指揮を執らせていただき、それ以来東京会工会をお手伝いすることになりました。今おもうと五十嵐先輩の努力には感謝しております。

当時の井上前会長が室井新会長の引き継ぎの時、井上前会長の東京会工会に対するあの熱い涙の挨拶が今も自分の記憶から離れません。こんな先輩方々の東京会工会に対する努力が幾多の困難を乗り越えて今があるのです。

これから二〇〇年に向けて我々はこの伝統ある東京会工引き継がなければならない任務があります。個人情報等々の問題もありますが、執行部が一体と

なり東京会工会が魅力的な会にして、若い年代が大勢参加していただけるか努力していきます。

読売新聞、六月七日付夕刊、同窓会のお知らせ掲載してみました。十六名の新参加もありました。真近になり会場のテーブルを増やしたことも喜ばしいことでありました。

ふるさと会津を同じくし、青春時代を謳化した母校を想う心、会社の上下関係、商売に係るなし、なつかしい会津弁、方言も聞かれる、われわれの人生の応援歌を力いっぱい唄う東京会工会。

二〇一三年、NHK大河ドラマ「八重の桜」に決定し、我々の会津の歴史の敗者が苦難にもめげず、前向きで生きて来た八重のことをおもえばみんなで力を、知恵をしぼって東京会工会の継続に前向きで頑張ろう。

頑張れ、健男児
栄えある健児よ

若松会工会

会長 藤田 晴史
(昭40E卒)

東海会工会

名誉会長 星 芳雄
(昭36E卒)

平成23年6月5日（日）名古屋市内で会員19名の出席のもと総会を開催しました。

鶴雲飛翔

校歌斉唱で始まり、東日本大震災犠牲者、手代木会長、会員物語者を偲んで黙祷をしました。懇親会では若狭副会長、山野教頭先生等来賓の方々の祝辞を頂き、恒例の剣舞白虎隊を詩吟東京会工会副会長五十嵐様、舞 東海会工会副会長浅沼定様の昭和33年卒の名コンビで披露頂き盛会となりました。

今回の総会では、過去の総会と異なり帰りの送迎バスを店の協力を得て2回出して頂いた事です。



乾杯後会津若松へお帰りになる来賓の方々の都合で一時間強の飲食時間で帰りの送迎バスを出していた為、充分な飲食が出来ないうちに帰宅する会員が多く不満があった。それを今回は会津若松へ帰る方々と2時間の制限時間一杯まで飲食を楽しんで帰る組とに2回に分け帰りの送迎バスを出して頂いたわけですが。今回は食事が楽しめたと皆様に喜んで頂けたと思います。

宴席では、乾杯後30分と終了前10分間は、自席に着き会話しながら食事を楽しましようにと長野県松本市では宴席での食べ残しを減らす『30・10（さんまる。いちまる）運動』もつたいない運動』を展開中だそうです。

取引先や先輩同僚へのお酌に



近畿会工会
京都で知らせておきたこと

忙しく料理を食べ残してしまう旧来の食習慣を見直すのが狙いだそうです。又食べ残った料理を持ち帰るドギーバックの提供など飲食店と研究中で食べ残しを減らす事に取り組んでいるそうです。食べ物大切に『もったいない』精神を忘れないようにしたいと思います。

又我々も今後『30・10運動』を展開しようかと思っています。

会長 大竹 文夫
(昭31C卒)

平成二十三年度第四十八回近畿会工会定例総会を京都市内ホテルにて開催しました。同窓会本部より若狭副会長山岸幹事長、本校より山野教頭先生が出席して頂いて近況活動報告を受けました。東京会工会百周年を迎えられお目出度うございます。近畿会工会も歴史に火を消さない様会員一同頑張りたいと思っております。京都には京都津会工会と言った会があります。この会は会津藩主松平容保公が江戸幕府徳川將軍に京都守護職を命じられ薩長新政府軍との戦(戊辰戦争)で京都にて殉職された会津藩士を弔う会で会員は約一〇〇名。毎年六月第二日曜日に京都紫雲石西雲院本堂にて法要を行っており今年で一〇六回の法要を行いました。この会は関西在住の人だけでなく又会津出身と云うだけでなく又会津藩の一途な「勤皇の志」に感銘を受けた方が会員として多々おられます。京都へ来られましては是非会津墓地へ立寄って見て下さい。立派な石碑が誇らしげに立っています。もうひとつお伝えしたいことがあります。

郡山会工会

幹事長 藤沼 嘉典
(昭32丁染織科卒)

この度の東日本大震災により郡山市内でも多くの方が被害を被り、又、東京電力福島第一原子力発電所の事故により今後の展開次第では先行き不透明な状況が長く続くものと思われれます。

福島会工会

会工曜変天目茶碗をたずねて!!!

鈴木 静夫
(昭30M卒)

福島会工会に入れて頂いております、昭和30年3月M30卒業の鈴木静夫と申します。

皆さんご存知の通り3月に1000年に1度と言う、東日本大震災に見舞われ地震、津波、原発と未曾有の惨事に遭遇して、被害を受けた方々には、お見舞い申し上げます。

福島市も地震の被害はありましたが原発の放射能問題があり収束しないと、まだまだ安心出来ない状況です。

こんな中、私の所に卒業以来半世紀目に1度の同窓会会報2011の、原稿出筆依頼が舞い込み(卒業以来56年)、あれこれ思案しましたが3年程前の福島会工会と母校同窓会にお世話になった見学、研修について書いて見たいと思います。

定年を迎えた平成12年度に福島市の生涯学習の陶芸教室を終了したメンバーで組織する陶芸クラブで、作陶、素焼き、釉掛け、本焼と全工程を当番でやり、

作陶を楽しみながら、人生の楽園を満喫している60歳以上のグループの集団です。(会員数40名)

切っ掛けは平成21年の福島会工会の同窓会の折に母校のセラミック化学科が、「目指せスペシャルリスト」事業の指定を受けた3年間「曜変天目茶碗の制作を通してスペシャルリスト育成に力をつけての講演を拝聴した時に始まりました。(佐藤正道先生講演)

(平成21年福島会工同窓会のメニューに組み込まれており拝聴出来ました)

この講演を聞き、会工曜変天目茶碗の現物を拝見して、これはクラブのメンバーにも見聞して貰いたいと考え、22年度の福島会工会同窓会の折り同席された校長先生ならび事務局長さんにお願ひしましたら、学校開放講座、実習については受け入れられますと御返答頂き、早速に依頼文をだし日程調整して22年6月2日に学校訪問させて頂き田村先生の案内で講演と曜変天目茶碗、生徒さんの実習を見学、また同窓会館内の貴重な展示作品も見学させて頂き感謝と、大いに刺激を受けて研修参加クラブ員からも大好評でした。



駄作1
酒器(骨酒用)・・・求む、岩魚

駄作2
まな板皿(馬&牛たたき用)・・・求む、馬刺し牛たたき

坂下会工会

坂下会工会の近況

会長 五十嵐 一夫
(昭43A卒)

総会を例年9月に開催し、会員同士の親睦をはかっています。特に若い会員に出席を呼びかけています。隣接の同窓会にもお願いし湯川、柳津会にも招待し、懇親を深め連帯感を醸成しています。

1年間の活動として、坂下地区同窓会対抗ゴルフを例年8月から10月に5、10名が参加、10月は本会同窓会総会に3、5名の出席を心がけています。坂下地区会工会PTA懇談会に招待を受けての出席が年末頃、1月に新年会の開催を10数名の出席、坂下地区三校同窓会の親睦の一環として、会津高校、若商高校の同窓会が7、8月に開催され出席し、当校の総会にも招待をして相互親睦をはかっています。坂下地区会工会PTA

会員の皆様にもさぞご心配の事とお察し申し上げます。

さて今年度の郡山会工会の定期総会ですが、3月11日の大地震により3月18日に予定をしておりました5月の定期総会の日時を決める役員会議は会場が被災をしていて中止とする事となりました。

日を改めて、4月18日に代表者4名「金田会長、藤沼幹事長、佐藤享會計、菊井事務局長」による臨時の役員会議を金田会長の自宅で開き、会議の席で会場となる三松会館も被害を被り営業が出来なくなっており、又、会員の方の中にも避難をされている方もあり協議の結果定期総会の実施は困難として中止と決定致しました。

尚、平成23年度定期総会資料「平成22年度会務・会計決算報告」は会員全員に郵送する事と致しました。

ここで郡山会工会の現状を報告致しますと、会員数74名、会員の高齢化が進んでいて現役世代は8名と現状は非常に厳しい状況となっております。

若い人の入会者がなく今後の郡山会工会の存続にも係わる事態となっており、会員募集も手詰まり状態となっていて良い解決の方法はないものかと苦慮しております。

質実剛健

至誠勤労



Aの総会が12月頃開催され、出席して生徒の保護者と学校の先生と懇談をして、相互理解をしています。

このほか随時役員会を随時開催し、連帯の維持に努めています。これが定期的な活動であります。

この1年間の活動のなかで、特筆する事として、サッカー部が新人戦で県大会を制し東北大会に出場とのこと。会員の中山和一君・飯塚裕君を中心に激励金のお願いを坂下地区で展開し、本校以外の方々からもご寄付をいただき、大会出場前に贈ることができました。

会には、箱根駅伝等で有名な駒沢大の大八木監督(同窓生をはじめ選手)の招待に貢献し、10月の大会に花を添えることができます。

同窓会の総会や役員会には若い会員の参加があり、これからの同窓会のけん引役として期待をしています。また女性会員も参加していますので、老若男女の同窓会でもあります。

今年はサイパンの松江春次翁の功績を訪ね、坂下会工が表敬訪問し丁度10年でありまして、今でも遺族の佐伯様と親交を続けています。坂下会工は地域に根ざした同窓会として会員一同連帯感を深め合って活動をしています。

猪苗代会工会 震災を乗り越えて

会長 菅沼 淳一 (昭36E卒)

まず、東日本大震災で被害を受けた方にお見舞いを申し上げます。

さて、猪苗代町も震度6弱を記録し、多くの家屋が被害を受け、その復旧に全力を傾注して



いるところでございます。また、公共施設でも、教育施設、道路、橋梁、河川、公園などが被災し、



災害復旧の最中でございます。この震災では、多くの会工高OBが被害調査や災害復旧工事に従事し、活躍されているところがございます。復旧事業が促進され、普段の生活が取り戻されるよう、一日も早い復興をお祈りいたします。

また、当町には、浜通り地域からの約3000人が宿泊施設などに避難しており、当初の避難所では、町のあらゆる団体が支援の輪で温かく迎え入れておりました。今では、農家のお手伝いや交通安全街頭指導、各種イベント等で会津と浜通りの市町村のかたがたとの交流が図ら

れています。

ところで、昨年の当会の活動のひとつとして、猪苗代で開催された県高校駅伝大会の応援を役員中心に行いました。沿道に会工会の同窓会旗を掲げ、同窓生が大きな声で声援をおくりました。会工の後輩たちが、一生懸命母校のタスキをつなぐと心をひとつに走る姿は多くの人に感動を与えたことと思います。また、この大会には、猪苗代会工会のメンバーも競技役員として多くの方が大会運営を支えておりました。

総会も、この駅伝大会に出場して良い成績を取った会員も出席し、昔の話に花が咲き、ガンバレ応援歌を熱唱し大いに盛り上がりしました。こういう、心の絆を大事にして、同窓会も会員拡大を図ってまいりたいと思いますので、今後ともご支援、ご協力よろしくお願い申し上げます。

建友会

会長 小山 源昭 (昭和38年A卒)

建友会の総会は、3月12日(土)、東山温泉の「瀧の湯」において開催されました。

以前から予定されていた日程

REPORT&MESSAGE

でしたが、偶然にも3月11日東日本大震災の後日でした。健友会としては、中止しようかと迷った点もありましたが、地震直後でもあり、通信手段の混乱等連絡もつかなかったため、そのまま決行とすることになりました。

参加者は、例年のように90名ほどが予想されましたが、前記の事情により、50名ほどの参加者となりました。それでも市や建設関係など業界の代表、会工同窓会本部役員をはじめ、会工各科の修養会会長など多数の来賓のご臨席を賜りました。ご多忙の中有り難うございました。

平成22年度事業・決算報告、平成23年度事業・予算案の審議を行い、満場一致で承認されました。その後、懇親会に入りまして、和やかな中にも、震災直後を言うこともあり、いつもの悩み以外に、建設業界共々、今後の福島県の動向に関心が向いていました。この時は、地震に伴う福島県第一原発の事故発生と大変な情報が入ってきました。震災に伴う復興事業の仕事はあります。これは私たちもやらねばならない事でもあります。しかし、具体的な動きはこれから沢山あります。行政機関の動きに注目するところです。

不景氣に加え震災・原発・風評の4強セット状態ですが、我

電友会

電友会史跡ウォーキング
会津藩祖保科正之を学ぼう

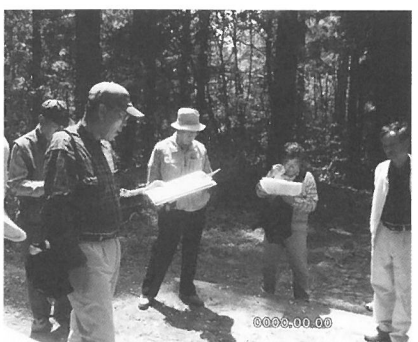
会長 根本 一雄 (昭36E卒)

去る、五月二十六日(木)電友会史跡ウォーキングが行なわれました。

飯盛山、市営駐車場に、十一名の会員が9時20分に集合して出発しました。素晴らしい快晴に恵まれ、みわたす限りの新緑をながめながら実施しました。最初に、奥の院(正之公が眠る墓所)の近くまで、車、4台で向かい、門扉の前の広場で、講師の大川原さんより、配布された資料をもとに、約一時間、正之公の生い立ちや、業績等の説明を受けました。保科正之公は1611年生まれで、今年は生誕400年にあたるそうです。その後正之公が眠る9mの高さの円墳を見学して土津神社(保科正之公を祀った神社)に向かい、土津霊神の碑を見学し、その前で記念写真を撮りました。



土津神社を参拝したあと、名家老、田中正玄の墓等や、磐崎神社を参拝し、昼食をいわはし館でとり、市営駐車場を2時近く



に解散しました。保科正之(二代将軍、徳川秀忠の側室の子)の民政は単にやさしく、民の声を聞く政治だったそうです。

23才にして、会津23万石の大名になり、徳川家光や家綱に支え、徳川家を盤石にしたすごい人材だったと感心させられました。

機友会

会長 栗城 和夫 (昭和41M卒)

平成二十三年度の機友会総会は、七月二日(土)、午後五時から、会津若松市内の料亭「米熊」にて、午後五時から行われ



ました。渡部重三副会長の開会のことばに続き、栗城和夫会長が「震災・不景氣とWパンチでありますが、私たち機友会のエネルギーが、私たちが盛り上げ、機友会の会員も少しずつでも増員を図りましょう」と挨拶をしました。事業報告・計画に続き、学校側から出席した山野教頭・茂木機械科長が挨拶。「昨年にもま

威風堂々

日立会工会

稲玉 光治郎
(昭30M卒)

平成22年の日立会工会総会は、11月27日(土)に開催しました。

今回も羽二生幸雄校長、若狭春生同窓会副会長、山岸清同窓会幹事長をお迎えし、総勢23名での楽しい語らいの総会を開催することが出来ました。

総会のしおりに「会津工業のこれから」と題する羽二生校長の御寄稿文をいただき、母校の現状を窺い知ることが出来ました。

特に体育部活動では、夏のインターハイにおいてバスケットボール、陸上部男子団体他5種目が会津地区優勝。県代表として全国大会に出場したこと。

また機械研修部がHONDAエコマイレッジ・チャレンジ全国大会で5位入賞。ものづくりコンテストでは「普通旋盤作業」部門で福島県大会、東北大会で優勝、など会工生が文武両道の精神を忘れず、至誠勤労一筋に努力精進していることに感激を新たにしました。

日立会工会には昭和16年に入社されて、米寿を迎えられた岩淵忠文さん、昭和18年入社の中

企業との社員とも昼夜仕事に励んでおります。

今後とも更なる母校の発展を祈念致します。

三菱伸銅(株)
鶴友会

番場 幸雄
(昭49C卒)

本を揺す三月十一日の大震災が発生し、多くの犠牲者や、工場設備、家屋がダメージを受ける中、当社に於いては人災はなく、設備の被害も少なくすんでおります。この様な中、新人社員が六名入社し、その内四名は会津工業より入っております。五月には観迎会を催し総勢八十五名での大宴会となりましたが、今般未成年の飲酒は法令上できなく、四名共ジュースで過しており寂しそうです。この新人も順調に育ち、今は一人前になってきて居ります。今福島県は原発による放射能もれで、震災と風評被害でダブルパンチでこの会津に於いてもこの影響が大きく、観光客の減少、地場食品の販売低迷などで苦しんでいます。しかしこれを乗り切り一歩を踏み出すべく頑張っております。全国に会津工業の同窓生が沢山います。皆様のお

して厳しい社会情勢のなか、皆様の後輩全員を進路内定させるべく頑張っています。学業成績もさることながら、人間性や他とのコミュニケーション能力が重要視されていますので、機械科諸先輩のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

セラ友会

会長 渡部 洋子
(昭32K卒)

窯業科・セラミック科・セラミック化学科の卒業生でつくれた「セラ友会」の総会は七月十六日(毎年度第三土曜日)午後四時からホテルいづみやにて、開催いたしました。今回の総会は、セラミック化学科卒業生の入会初年度となりました。セラ友会の発展のためには、新入会員の参加が期待されます。

新年度、会員相互の新睦として、やきもの教室・史跡めぐり・研修会等の事業計画や、坂場恒雄氏の名誉顧問・齋藤四志男氏の顧問及び二瓶正人幹事長と齋藤司副幹事長の選出などの役員



改選が行われました。総会後には講演会として、元会津工業高校教員古川静雄様による原発震災関連で、問題となっている「福島の子どもたちへ」何が起っているのかー原発震災関連のDVD小出裕章(京都大学原子炉実験所)の解説等をいただき認識を新たにしました。役員は
名誉顧問 吉田 一栄・坂内 茂男
顧問 高羽 芳満・橋本 英雄
石井 久夫・津田 進
佐藤 松夫・齋藤四志男
会長 渡部 洋子
副会長 佐藤 悦朗・関場 一宏

美修会

会長 白井 充
(昭42L卒)

定期総会は、六月二十五日「ホテルいづみや」にて、午後四時より開催し、事業報告・会計報告の後、今年度の事業、予算について審議され承認されました。又、今回は役員改選の年度でありましたので、新役員は、次のとおり改選されました。

会長 白井 充(留任)
副会長 儀同哲夫(留任)
副会長 佐藤 勉(新任)
幹事長 風間眞一(留任)
その後、懇親会に入り、若狭



副会長、その他の会の会長さん及び、母校の五十嵐研教頭先生のご臨席を賜り滞りなく終了しましたことを、御報告申し上げます。

REPORT & MESSAGE

具体的には会員相互の近親感を醸し出そうと、出身地を名簿に記載する、また趣味や特技(専門技術)などの披露なども考えております。

今次総会では「展示品コーナー」に、長谷会員の盆栽が一際注目を浴びました。何とこの日に合わせて咲かせた桜花一輪、一同吃驚するやら、唸る等それは大変でした。

また、昭和28(31年(No.17)28号)の「会工新聞」や入社当時の初給料明細書、所員任命書などの展示もあり、遠き昔を偲びました。

恒例のフィナーレは全員が肩を組み、大きな輪になって校歌・応援歌の大合唱となり、今回の元氣な再会を祈念しながら散会となりました。

最後に母校の益々の発展と関係各位の今後の隆盛を祈念し、総会報告といたします。

昭和電工(株) 東長原会工会

支部長 山口 栄喜
(昭和46E卒)

日頃より会津工業同窓会には

一生懸命



村康男名誉会長を先頭に会員一同頑張らねばと思う次第です。

日立会工会は平成19年に復活、今年で4年目を迎えました。日立製作所および日立関連会社に入社した日立地区OB・現役は80名以上おりますが、総会出席者は24(25名)で今一段の参加が望まれる状況です。

日立関連も社業の発展に伴い事業所が日立地区から県央・県西・県南へと進出・分散。結果として同窓生も分散してしまいました。

幹事会としては、ここが踏ん張り時として、対応策を練っておりますが効果少なく苦心惨憺しております。

何かとお世話になりお礼申し上げます。

当東長原支部は磐梯山を間近にした緑豊かな地域環境にある河東町東長原長谷地地区にあり、この昭和電工の敷地には、昭和電工(株)東長原事業所、キャボットスーパーメタル(株)会津工場、中央化成品(株)会津工場並びに常駐協力企業等の各社があり、有機化学や無機化学などの化学工業製品と、電子材料等の非鉄金属関係の生産等を行っており、現在の会工同窓会の会員数は62名で、各職場の責任ある立場で昼夜活躍しております。

このように各企業に勤務している会工会の同窓生で、会工同窓会東長原支部を運営しているものですから、各会社より幹事を選出し支部長並びに副支部長等を決め、会員相互の親睦を図り、情報の交換と自己啓発に努めることを目的に活動を行っております。

近状の活動状況をご報告申し上げますと、「会工同窓会東長原支部会則」の規約に則り、毎年4月に総会を開催することが決まっておりますが、今年は3月11日に発生しました東日本

大震災の影響により4月中の歓迎会等の祝宴を自粛し、今年度の総会は5月20日(金)に行い33名の会員が出席しました。総会後の歓迎会では六名の新入会員(新卒者四名)の紹介と、めでたく定年を迎えられた二名の紹介後、新入会員等の挨拶や懇親、応援歌・校歌斉唱等を行い、会員の親睦を図り和やかで盛大に開催することができました。

その他の会工同窓会の活動に付きましては卒業会や送別会・激励会等を行い、各社の各職場に点在している同窓生の親睦を深めながら交流会を行っており、勤める会社は違っても東長原地区で働く仲間の交流を図ることの意義を感じております。

最近、団塊の世代の定年退職者増に伴い、会工生の新規採用者が多くなってきたこと、定退者の再雇用制度で定年を延長される方が多いことが重なり、毎年会工会員数増を継続しています。

今後は、当会工同窓会に関係の深い化学系の学科が縮小されており、新卒者の入社に多少不安はあるものの、会津工業高等学校の優秀な卒業生を多く迎え入れることを期待しながら、各

力を借り力を合せ、一日も早く
元氣な会津に戻れます様三菱伸
銅、鶴友会としても頑張ってい
ます。

日曹会工会

日曹会工会の近況

会長 田部 一徳
(昭48C卒)

日曹会工会は、磐梯町駅前に
所在する日曹金属化学(株)会津工
場に勤務する、会津工業出身者
の同窓会組織です。会員は現在
四十二人、会員間の親睦を図り、
母校と工場の隆盛発展に寄与す
るの目的に活動しています。

年度末の定期総会と、恒例東
山温泉での懇親会、技術研修旅
行や新春交換会と名目はどうあ
れ、酒席の数が多くなります。
ここ数年は情勢の厳しさから新
卒採用を控えてますが、新会
員の加入があれば歓迎会が催さ
れます。職場を横断しての懇親
は職制の垣根も越えたコミュニ
ケーションの促進に大いに役立
つ事になります。

今年の東山温泉での懇親会
は東日本大震災が発生した三月
十一日でした。午後二時二十六分
のあの揺れは工場設備の殆どが
壊れてしまうのだったと思つたほ
どです。その後の対応に追われ

乾坤秀霊

懇親会は忘れていましたが、連
絡が途絶えた中でも、つわもの
一五人がグランドホテルに集ま
り懇親会を行いました。

さて今回の人知を超えた大震
災と大津波は、自然に対する

人間の無力さをあらためて知ら
されました。犠牲になられた皆
様のご冥福を心からお祈りする
ばかりです。その後原子力発電
所のトラブルは安全神話の崩壊
と、甚大な被害、収束作業の困
難性も思い知らされました。

これまで使い放題の電力を前
提に成り立ってきた構図を変え
ていく必要性が生じて来たと感
じます。

OB会

サッカー部OB会

事務局 中島 和一
(昭50K卒)

心をひとつに
最初に、三月十一日に起きた
東日本大震災に対して被災され

た皆様に心よりおみまい申しあ
げます。福島県は、地震、津波
そして放射線と三重苦に見まわ
れてます。会津地区は、幸いに
も被害も少なく放射線量も少量
であります。

さて我が母校会工サッカー部
が創部五十年目と言う節目の年
に、県新人戦で初優勝、初の東
北大大会に出場されました。結果
は一回戦、敗退。しかし、敗戦
の中にも会工サッカー部の未来
をつくる一点を取ってくれまし
た。OB達への魂のこもった一
点でありました。

会工OBも頑張っています。
「なでしこジャパン」がワール
ドカップ初優勝の日、会工サッ



カー部OBが多数在籍する会津
オリンパスFCとプロ集団、福
島ユナイテッドFCの天皇杯県
準決勝がありまして。結果は、
延長戦でも決着がつかずPK戦
に5-6惜敗。涙の敗戦となっ
てしまいました。

江本先生の元、選手諸君は全
国大会出場めざしきびしい練習
にあけくれる日々だと思ってい
ます。三年生には、悔いのない
戦いをしてください。

最後に、県大会、東北大会
にいつも応援に来ていただいて
いる会工後援会、保護者会、O
B会の皆様ありがとうございました。
そして、会工サッカー部顧
問の先生がた、選手の皆様心に
のこる感動をありがとうございます。
心をひとつに頑張れ
会工サッカー部

吹奏楽OB会

会長 小俣 弘行
(昭47T卒)

先ずは、同窓会の皆様方には、
日ごろより物心両面から多大な
ご支援、ご協力を賜り厚く御
礼申し上げます。

会津工業高等学校吹奏楽部O
B会は、初代卒業生坂内誠志氏
をOB会長として昭和50年に発
足し、年一回の合同演奏会など
音楽活動を通じ積極的に会員相
互の親睦、及び在校生の支援
協力、交流に努めることを目的
として組織され、運営活動をし
て現在に至っております。

第1回定期演奏会の開催から
現在まで、コンクール各種大会
他の楽器運搬、部員へのアドバ
イス等と可能な限りの協力を、
近年卒業のOB OG等の力を
得ながら活動をしております。
日々の厳しい練習を見ていると
OB会として何かやらなくては
と常に自励努力している訳であ
りますので、今後も宜しくご指
導賜りたいと存じております。

我が母校会津工業高校の生徒
は他校にはない自己研鑽する能
力があり、基本的には真面目さ、
素直さ、優しさがある素晴らしい
生徒であります。素晴らしい
輝かしい伝統を築き上げている
吹奏楽部に対し、改めて絶大な
協力と育成をお願いしたいと
思っております。

是非一度、定期演奏会に工業
サウンドを聴きにお出で頂き、
感動を味わっていただきたいと
思います。今年度の第31回定期
演奏会は、平成23年11月12日
(土)となっております。

REPORT & MESSAGE



第30回 福島県立会津工業高等学校吹奏楽部定期演奏会

会工46電子会

福王寺 一元
(昭47D卒)

本会は、昭和46年度電子科卒
業生の同級会組織です。30数年

の時を越えて平成18年から隔年
開催で会を復活させました。

平成22年10月16日に東山温泉
原瀧にて「会工46電子会 復活
第3回同級会」を開催致しまし
た。

○同級会参加者は、恩師 田辺精
治先生も含め19名でした。
○記念品として、会津漆器をガ
ラスに施したぐい呑みを配布致
しました。

○同級会の前に、有志(5名)
によりメロウウッドゴルフクラ
ブにてゴルフを楽しみました。
同級会の次第は以下のとおりで
す。
①幹事挨拶 影山良智(会津若
松市在住)
②故人への黙祷
③現役東北大学院生である渡部
正司(仙台市在住)の開会の挨拶
と乾杯
④田辺精治先生からのご挨拶
⑤各人からの近況報告
○今回の同級会は、参加を楽し
みにしながら急逝した橋本秀吉
(相模原市)を偲ぶ会でもあり
ました。

○会のホームページへの投稿記
事や、本会に参加できなかった
佐藤光(横浜市在住)の工業専
門誌の論文記事や山内充(加須



復活!! 会工46電子会
第3回

市在住)からの写真や絵などの
回覧も酒の肴となりました。

○別室での2次会では、遠地
の為参加できなかった渡辺正高
(宮崎県都城市在住)からカン
パの焼酎の銘酒「赤霧島」を楽
しました。
：などなど和やかに進行し、真夜
中まで話題はつきませんでした。
〈所感〉

還暦へのカウントダウンとなっ
た年齢での同級会でもあり、そ
ろそろ「引退」を意識する者、
すでに「引退」した者、その中
にあつて、今だ学生でもあり新
婚で子供ができた報告をする
者、それぞれの生き様から、勇

同窓会を支 える十一会

十一会幹事 藤田 晴史
(昭40E卒)

会津には「無尽」と言う互助
会があります。同窓会役員の無
尽として「十一会」が発足して
三十年には優に経過していると
思われます。私は加入して二十
年であり古い事は良く解りませ
ん。現在も会員は同窓会の役
員が主体で、過去には元校長先
生や教員OBも加入しており同
窓会を全面的にバックアップし
ています。会場は発足当時から
主人が同窓会役員であった割烹
『万花楼』です。

話題には事欠かず、同窓会
の内容は勿論の事、学校状況
や生徒の部活動での活躍を始
め、地方政治や国政とまで及び
ます。現在、会員には二名の会
津若松市議会議員と、会津美里
町・猪苗代町の議員がおり、他

祭り囃子

荒川 富士雄
(S43年機械科卒)

会津磐梯山の太鼓の基本リズム
ムです。30年ほど前従兄弟に誘
われて、練習を見学したのが始
まり、聞きなれているリズムな
ので何とかなるだろう、位の
簡単な気持ちで入会したが、
実際に叩いてみると大間違い、
バチを持つ左手、右手の動きと
叩く強弱、笛、三味線、唄、
に踊って合つてやつとOKがで
る、なかなか思うようにいかな
い、で、ハッキリ現在まで、初め
て櫓に上がったときには、緊張
してバチが持てなかった事を思
い出します。

バチを振り上げ、太鼓を叩き、
櫓の上と踊りが一体になったと
き最高です。

根性一途

今年度受賞・活躍された先輩

機友会が贈呈

会津工高機械
研修部に5万円
「機友会」が贈る
会津工高機械科の卒
業生でつくる機友会
は三十日、同校の機械
研修部に激励金五万円
を贈った。
栗城和夫会長と荒川
富士雄会計、菊地登貴
雄幹事長が同校を訪



れ二瓶隆博君(三年)と長谷川智紀君(三年)に激励金を手渡した。同会は毎年、同部に激励金を贈っている。

平成23年7月31日付 福島民報新聞より

秋の叙勲 渡部昭寿(昭和34年E卒)

「調査・研究の徹底」信念
旭日双光章

渡部 昭寿さん 70
会津若松市一箕町亀賀
字郷之原
元会津若松市議



郡山市出身、会津工高卒。1975(昭和50)年、会津若松市議に初当選し、5期20年間にわたり市勢発展に尽力した。

「家族や地域の支えがあつたからこそ」と喜ぶ。底を信念に職務に励んだ。

寄付金を手渡す吉田代表
清算人(左から2人目)

平成22年11月3日付 福島民友新聞

旧松江奨学会

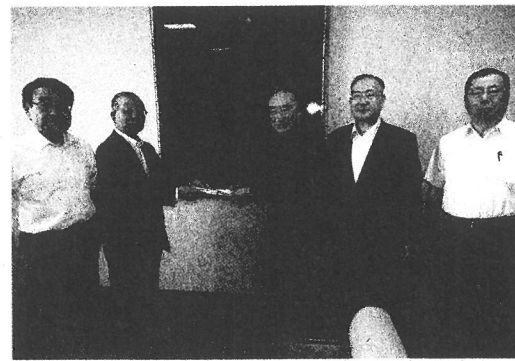
会津工高の教育支援を目的に設立され、3月に解散した松江奨学会は7月22日、同じく会津若松市内の高校の教育支援に取り組んでいる会津育英会に残余財産244万5123円を寄付した。

松江奨学会は1939

故松江氏の功績後世に

奨学会 会津育英会に残余寄付

(昭和14)年、故松江春次氏が当時の金額で33万円を会津工高に寄付し、このうち10万円を基本金に設立された。その後は校内各科の優等生に贈る「松江賞」も創設した。公益法人制度改革に伴い、会の在り方を検討した結果、解散が決議さ



れ、3月1日付で解散した。会は解散するが、松江氏の

功績を後世に伝えるため同窓会から支援を受けて「松江春次顕彰会(仮称)」をつくり、褒賞は続けていくという。

贈呈は同市の会津商工信用組合本部で行われ、吉田一栄松江奨学会代表清算人が吉田真理会津育英会会長に寄付を手渡した。

平成23年8月4日付 福島民友新聞

REPORT&MESSAGE

われら同窓生 わが母校を語る

南会津郡下郷町長 湯田 雄二
(昭和35年K卒)

山口設計代表取締役社長
(昭和35年K卒)

山口 一男
(昭和37年A卒)

道の駅もごう駅長

会長 小山 源昭
(昭和38年A卒)

〒965-0802

会津若松市徒之町1-37

明治35年9月に本校の設立の許可「福島県立工業学校」と称する。37年4月15日開校式挙(創立記念日)した。昭和4年4月1日に文部省告示第372号により「福島県立会津工業学校」と改称し、同23年4月1日学制改正により新制高等学校発足、「福島県立会津工業高等学校」と校名を改称した。平成14年10月26日創立100周年記念式典を挙行了した。

■実習にあげられた高校時代

湯田 私は昭和35年の卒業で窯業科を卒業しました。いまは、名前が変わってセラミック科となっています。いまでこそ下郷

た。いまでは考えられないでしょう。それから、会津工業は週の半分が実習です。窯業科では粘土の整形という実習をしていました。

山口 私は昭和37年の卒業です。学校に入ってから当時、生徒会役員をしていた浅沼さんに影響を受けました。私の1つ先輩の横井徳司さん、いまは亡くなられましたが、この方の行動にも影響を受け、その2人を目標にして学校生活を送ったような気がします。当時、私も湯田先輩と同じで蒸気機関車の時代でした。また、国道49号線、いまの会津中央病院前の道路もなかった。私の住む猪苗代から会津若松に行くには強清水の旧道、当時はまだ砂利道でしたね。

その峠を越えるしかありませんでした。ですから、汽車が遅れると猪苗代から若松商業高校に行っていた生徒さんのお兄さんが免許を持っていたので、車であの砂利道で送ってもらった経験もあります。

朝、登校をすると宇佐見先生

が校門に立っていた。(笑)髭をはやした豪傑な先生で、入学当初は「会津工業は怖い」と感じた思い出があります。また、当時は授業中に機械科の実習が始まると木造の校舎だったので振動がかなり激しかった。学校が広がったこともありすが、いたる所の床下に水路が走っている。蒸気機関車だった会津若松駅の石炭の臭いから始まり、もの凄く広い高校。これが会津工業に通っている自分のステータスだなと感じていました。

小山 私は、山口さんの1つ後輩で、昭和38年に建築科を卒業しました。身知らず柿で有名な門田町の御山から自転車通学でした。

建築科に入学したきっかけは、確かに好きで選択しましたが、当時は花形であった電気科を希望しても、先生から「お前は電気は無理、建築にしなさい」と言われ、素直に選んだように憶えています。学校時代、勉学では並の生徒でしたが、好きな科目、特に設計製図にはとこ

とん勉強しました。反面、その他はほとんど怠けていました。(笑) 高校時代、辛く厳しいことがあったかもしれませんが、いまは楽しかったたくさんの思い出ばかりです。クラスでは表向きは硬派で、裏では軟派でした。(笑)

私にとって人生のかけがえない友で、高校の同級生、渡部孝君との関わりが多く、彼は応援団長で工業の番長でありました。会津高校と若松商業の勉強仲間(笑)とは頻りに交流していました。

部活動といえば、野球部を希望したのですが、渡部君の誘いで水泳部に入ったのですが、実際のところ、その動機は極めて不純でした。(笑)当時、この高校にもプールがなくて、市営プールで市内の女子高校生との合同練習は楽しかった思い出です。

建築科にはユニークなクラスメイトが集まっていましたね。校内マラソン大会での出来事です。が、スタートしてまもなく旧若松女子校の交差点を左折し国道121号線を南に進むコースですが、若松女子高校生をガールフレンドにしていたクラスメ

温故知新

初志貫徹



湯田雄二氏 代表する漆工科がなくなり染織科もなくなった。我々の時代は工業科化学もありましたが、それもなくった。新たに情報技術科などが出てきました。昔、T L K C M E A の7科があったが、その内、T、L、C がなくなり残念に思っている。工業学校というのは、工場のようなところで、我々の学んだ窯業科というのは、練兵場。校庭の奥にありましてそこに煙突があり、その横には染織科の織機がボタン、ボタンと音をたてていました。機械科に行くが鉄を溶かすものがあつたりしました。ですから、1年生の時は校内で道に迷ったこともありす。(笑)

なる。化学分野もなくなる。これは大変残念だと思います。工業学校というのは、そこで1人前の職人になることが狙いだっ

たと思います。ですから、学校を出ると、一端の職人として通用するとうような教え方だったと思つています。その精神は

る時も成績順で入る科が決まっていた自分が希望して学校に入つた記憶がないのです。それで2年間やってきて、3年生の時に「建築でいいのか?」と揺れ動いていたのです。その時、東京会工会の方からいろいろとお話を聞きました。先輩方の活動聞き、そこで、やはり、会津でもそうでしたが「帽子の3本線は選ばれた者だ。そういう気持ちで堂々と帰つていいんだ」と言われて自信が

多くの人が就職していると思つます。いま振り返りますと、そこで学んだものを即、生かされる学校だつたと思つます。いまも自分でやってみないと気が済まない。そういう意識は会津工業で学んだからなのかなと思つます。

私の会社には会津工業の卒業生で65歳の方が1人、昔、デザイン科がありましたが、そこを卒業した49歳の女性、23歳の建築科を出た人たちがいます。一番若いのは今年卒業した社員です。ですから、職場は会津工業の卒業生が多い。窯業科の先輩、

山口 高校3年の春、在校生代表で、東京・上野の精養軒で「東京会工会」の交流に、当時、建築科の先生だつた山内先生の引率で行きました。その頃、自分は気持ちグラグラしていて設計もあまり好きでない状態でした。中学3年の進路を決め

た。中学3年の進路を決め

建築科の先輩の姿を見て真似をしてきたところもあります。それで、自分の生き方も間違つていなかったのではないかと感じています。

実は、下郷町の施設も私が高所作業車にヘルメット被つて登り、外壁のタイルとかの劣化状態などを自らやりましたが、こういうのも先輩に作業している姿を見せる。私がやれない時は別な者がやる。そうして後輩たちに学校で教わつたことを伝えていきます。

小山 高校の時、勉強もそれなりにやってきたつもりです。建築設計が好きで、市内の会津土建に入社しました。入社2年目ごろ、会津高校が大火災で校舎の大半が消失しました。緊急復旧工事で、当時85歳の校舎の現場監督をしました。杭打ち工事の時「新潟地震」があつたこと、また、20歳前後の若さで、よく仕切れたなど思つます。どうしても設計の道に進みたくて、当時の社長、菅家忠男さんに相談したら「よし、そんなに設計に進みたいのなら、佐藤隆の設計事務所に行きなさい」と紹介して頂き、そこで修

■会津の伝統工芸を支えた技術の継承を

湯田 いま、私が残念に思っているのは学科が減つてきている

会津を代表する産業の科目が全部あつたのですが、その後、時代の流れとともに会津塗りの漆工の部分がなくなり、会津木綿などの織物の部分がなく

とあります。道の駅は単なる物販直売所ではありません。会津工業で教わつた事、社会で教

ますが、そこでも農林科がなくなつてしまつた。ここは、農林業の地域ですから、そういうものがなくなるといふことは寂しいですね。しかも、それ以外の産業が新たに出来たというところではない。やはり、基幹産業的なものは残していくべきだと思います。

工業出身の人たちの姿を知っていると思つます。そして、技術を必要としている日本では、いままです以上で会津工業で学んで活躍している人たちの技術が求められます。経済の問題もありますが、あの学校に入れた勉強させようといふことで、他の学校にあるような定員割れなどは絶対に起こさないよう、卒業した我々も頑張つていかなければいけません。

REPORT & MESSAGE

業し、自立して設計事務所をしていました。「その内、また、会津土建に戻つてこいよ」と言われ退社し、実は55歳の時、本当に戻り、会津土建にまた復活いたしました。いまの菅家洋一社長から「サケは川で産まれて海で育ちまた産まれた川に戻る」と言われたりしました。

湯田 明治37年に学校として設立されたのですが、その当時は地域の産業である窯業を始めとして、それから、会津塗り、染織など会津の主な産業から始まつたのではないかと思つます。その他にも、会津の産業を育てるために必要に迫られて1つ1つ学科が増えてきた高校であると思つます。それがいままで続いてきたわけですが、時代の流れで衰退するものもあれば、また、新しいものも出てくる。いまは5つの科になり、昔よりも絞られてきてしまつた。

私、会津本来歴史的にも続いていた漆工の分野、織物の分野、染織の分野は残して欲しかったと思つます。

また、私たちの学校だけではなく南会津には田島高校があり



山口一男氏 20代の頃、小山山さんはとてもユニークな方でした。設計も当時、軽量鉄骨がありましたから、他の人は出来なかつたものです。ところが、それを小山さんがやっていたので私は注目していました。そういう方々が現在活躍されている。それから、湯田町長、こちらは私の先輩です。長期に渡り町政を担い県の町村会長もやられた。郡山にいくと三菱電機に卒業生が多い。福島

福島県内には郡山北工業高校、会津工業、勿来工業などがあります。一番伝統があるのが会津工業です。いまの在校生も、これから入ってくる子供たちも当然ですが、その父兄たちも卒業して活躍されている会津

戦後の近代建築、会津地域の鉄筋コンクリート建築からバブル時代まで建築の大半と言えるでしょう。公共建築の発注者側、設計事務所、ゼネコンの社長、または幹部等、あらゆる

営業本部長として務め、60歳定年でリタイアしました。若い頃から奉仕活動、景観とマチづくり運動とボランティアをしていまして、ライオンズクラブの入会は33歳と早かつたと思つます。そのような中で、西会津町からオファーで役場に入り、「道の駅にしあいづ」の立ち上げから関わり運営してきました。任期満了で退任したら、また下郷町から声を掛けて頂き、甲子道路開通により新しく開設された「道の駅しもごう」携わつてまもなく1周年を迎えようとしています。

ですから、現在は、建築系、エンジニア系とは全く別な仕事をしていきます。ここで言えることは、設計でも現場でも、いろいろな段取りは建築屋がうまい。(笑)立案、計画もそうだ

功績は大きいと思つています。

福島の近代建築、会津地域の鉄筋コンクリート建築からバブル時代まで建築の大半と言

23 会工同窓会報No.36 '11(平成23)総会号

百戦錬磨

「松江賞」「同窓会賞」受賞!!



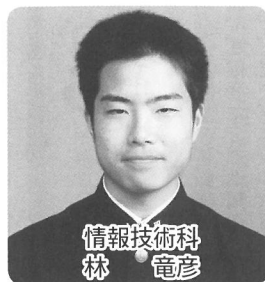
機械科1組
國分 将希



セラミック化学科
桶口 道子



建築インテリア科
渡部 昌史



情報技術科
林 彦



電氣科
小沼 昌平



機械科2組
仲松 郁弥

松江賞規程

校内表彰規程の⑤の他団体よりの表彰で特別賞とし、学業、教科外活動、生徒会等において他の模範であるもの



機械科1組
高型 楠央



セラミック化学科
戸田 愛理



建築インテリア科
渡部 京介

同窓會賞規程

教科外活動・生徒会・学業等において顕著な実績を残し、生活行動が立派であるもの



情報技術
波田野直弥



電気科
馬場 文康



機械科2組
秦 真吾

獅子奮迅

ころに建友会員が在籍している時代がありました。大袈裟に言えば、「建友会が会津の公共と民間の大型建築を仕切っているんだ」といった奢り、錯覚の時代がありました。

大人たちの勝手な都合によって、街を壊しビルを建て、リゾート開発で自然、山野を無残にし、とりかえしのつかないことの一端を担ってきたことも事実であります。そのことに反省の意味と報いるため、行政の建築審議会と各まちづくり委員会での活動も、地域に対する役割を果たしていると思います。

■いまこそモノづくりの
継承を担う学び場に



小山源昭 氏

湯田 いまま
では会津特有
の産業がほと
んど衰退して

います。これ以外のものがなかなか見いだせない。そういう中で、この学校の役割は、大きいと思います。人材を作るといって意味からいうと作った人材がここに残らない。外に出ていつてしまうこともあります。子供たちが地元に残れるというように

していかねばいけないと思います。就職だけでも県外が約3割、県内が3割、それから短大、大学を含めると半分ぐらいは県外に行ってしまう。やはり、学校で学んだことが生かされるような事業所が多く出来ないといけません。そういう意味で、地域の産業の手助けするような子供達を輩出する学校として、これから、教えて頂ければと思います。これから入学される方には、普通高校とは違った良さは、普通高校にあると思いますので、そういう意味でいまの世代の方々は汚れる仕事はしたくないと言っている方がいますが、決してそうではない。モノづくりは大変楽しいと理解して頂いて勉強をする。そういう心構えで入学をすると常に目標をもった学業

の学び方が出来ると思います。

山口 私は高校3年の時に就職試験で川崎の千代田化工建設に行ったことがあります。1次試験で落ちましたが、採用結果を聞いたら合格した生徒は有名な工業高校のようなところばかり

でした。しかし、試験で落ちたからといってガツカリしてはいられません。白線3本のどこに行っても通用すると自惚れていたところはありますが、1回や2回の失敗はくじけないで何回も立ち向かう。その気持ちで生きてきました。最近の生徒は過保護になってきていると言われますが、目標をもったら最後まで頑張ってみる。ほかによい職業もあるでしょうが、自分に課せられたことには、とことんそれに進んでいくことが大事だと思えます。会津工業を卒業した誇りをもってやって頂きたい。

小山 いまはＩＴ化、情報化の時代と前から言われていますが、若者、学生諸君が、そのことに優れていても日本の将来を正しく構築出来るか？心配です。

ここ数年本校の入学式と卒業式には欠かさず行っています。ひいき目かもしれませんが、全津工業の子供たちは、姿勢も良くて元気あり、廊下で会った時のあいさつもいい。会津工業はIT、パソコン、コンピュータ

は程々に、いろいろな実習に取り組み、チャレンジし続けることとは大事であり、素晴らしい伝統であります。我々の時代はT定規で図面を書いていました。いまはCADの図面でデザイン力の差はあっても個性のない図面、実習です。しかし、手で書



く図面は、個人差があり、特徴と個性がでます。匠の技術は、大工さん、棟梁の技能ではない。設計も、窯業も、染織も、漆器工も、写真も、絵画も、すべてが匠の技であります。モノづくりに関しては、全国レベルの大会で良い成績を取め、大学を凌ぐころもあるようです。これからずっと、その匠の技能と伝統を守り続けて欲しいですね。

「福」を手中に

教頭 山野 敏 (昭49 G卒)



会津工業高校同窓生の皆様、日頃から本校の教育活動に何かとご支援ご協力を戴き感謝申し上げます。この度の震災で卒業生も含め被災された皆様にお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

3月11日(金)、午後3時前でしたか、揺れが本校を襲いました。始めの10秒くらいは縦揺れでしたが、その後激しい横揺れが1分くらい続きました。機械科実習室のガラス数枚と教室の仕切壁にヒビが入った他は目立つ被害はありませんでした。

本校の北体育館も避難所となり、累計で120余名が月日に閉鎖されるまで過ごされました。全国各地から様々なご支援も戴きました。この紙面を借りて感謝申し上げます。卒業生の中にも震災復興に汗して携わる様子が伝わっています。

また5月11日より小高工業高校(震災と原発事故で使用不能)のサテライト校(分校)が設定され、25名が学んでいます。大変な状況の中、自分の目標を失わず、将来に向けて努力している姿には、本校の生徒教職員が学ぶべき点が多々あり、敬意を表せずにはいられません。

さて、その震災のあおりもあり、前年にも増して、本校生の進路関係特に就職は厳しいものがあります。嵐を乗り越え、「福」を手中に掴まんとこれからも「ものづくり教育」に邁進する所存ですので、ご支援ご協力のほどお願い申し上げます。



進路指導部から

主任 大塚 正幸



全国の会工同窓生の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと存じます。また、本校の教育活動に日頃よりご支援をいただき誠にありがとうございます。

さて、昨年度の進路状況としては235名の卒業生の内、約61%が就職(このうち県内が約40%・県外が約60%)、約39%が進学(このうち大学・専門学校がほぼ半数ずつ)という就職者の方が多いという結果になりました。就職については、求人数数が平成21年度の705社から減少し、1社あたりの求人数も例年より少なくなりました。それでも他の会津地区の高校に比べれば恵まれている求人数です。さらに、このような状況にあっても多くの同窓生の皆様が各企業で活躍されているという実績と本校の教育活動にご理解をいただいている各企業より、ぜひ工業高校生を採用したいという要望がありました。



平成23年度進路指導部職員

平成22年度学科別進路状況								
学 科	建 築 インテリ	セラミック 化 学	機 械	電 気	情 報 技 術	小 計	合 計	
卒業生数	38	40	79	38	40	235	235	
就 職	県内企業	10	10	26	7	57	139	
	県外企業	12	16	27	20	82		
	公 務 員	1	2	0	2	5	5	
	自営・縁故他	0	1	0	0	1	1	
就職合計		23	29	53	29	145	145	
進 学	大 学	7	3	3	6	41	48	
	短 大	2	3	1	0	7		
	公共職業開発校等	2	0	9	1	16	41	
	専 門 学 校	4	5	12	2	25		
進学合計		15	11	25	9	89	89	
家事手伝い・他		0	0	1	0	1	1	

また、最近ある県外企業の方から伺った話で、全国から生徒が集まる企業内で本校生の「ものづくり」に対する姿勢がとて素晴らしいと聞き、「ものづくり教育」を推進している本校としては、とてもうれしく、これからもより一層努力していきたいと感じております。

進学については、4年生・大学進学者が増え、受験勉強に十分励んで希望する難しい大学に合格した生徒もいます。また、大学、専門学校進学者の多くは、工業系の学部に進んでいます。工業高校で学んだスキルを向上させ、専門性を活かした企業への就職を考えているようです。

最後に、不景気に加え震災と円高が加わった大変厳しい状況ではありますが、今年度も生徒全員の希望進路の実現に向けて全教職員が一丸となって取り組んで、いきたいと思いますので、今後とも会工同窓生の皆様の変わらぬご支援の程、よろしくお願い致します。

The Present Condition

平成二十三年度新入生

1学年主任 村山 彰一

去る4月8日に、6クラス240名の平成23年度新入生が羽二生校長先生より入学を許可されました。5ヶ月を経て2学期が始まり、各クラスがそれぞれの個性を見せているようです。

この5ヶ月間を振り返ると、入学当初はぎこちなくて中学生のような生徒たちでしたが、随分と高校生らしく、会工生らしくなってきたようです。各自とも勉強や部活動、資格取得などに向けてそれぞれの目標を持ち日々取り組んでいるようです。中には自分の目標が決まらずに、どちらに行けば良いのか迷っている生徒もいるようですが、近いうちに自分の進む方向を見つけてくれることと思います。

この1年生2年後の今頃は、自分の進路先に向けて見学会などに参加している時期となるわけです。残り2年間をどう過ごすかは大変重要であることを認識して過ごしてくれることと思います。もちろん、それに向けて6名の担任を中心に、学校全体で生徒たちをバックアップしてまいります。生徒たちが自分の将来を考え、それに見合った進路を実現できることが学校の願いであること、目標であることは言うまでもないことです。

今年度は入学間近に震災があり、いろいろと大変な世の中となりました。不安なことも多々あるかと思いますが、時流に流れることなく、本質を見抜く目と判断力をつけ、この厳しい時代を生き抜く力を身に付けてもらいたいと考えます。

4月に入学した240名が充実した高校生活を送り2年後には自分の進路希望を実現し、平成26年の3月1日には、晴れやかな気持ちで本校を卒業していけるよう一丸となって取り組む所存であります。

次年度への足堅め

2学年主任 田中公雄

昨今のニュースは、東日本大震災関連に事欠かないようです。自然災害に対しては、人間は弱いものであります。それに付け加え、原発事故には何ともいえない思いがこみ上げてきます。

その震災以降、驚異的な円高も加わり会津地域の企業も影響は大と考えざるを得ません。

7月1日より解禁となった本校の求人票受付数は、地元を中心に冷え込んでいるようです。昨年より厳しい受験になりそうと、進路では予測しています。

さて、学年の生徒達の状況はと申しますと、不況の風も何処へやら、部活動に、資格取得に、伸び伸びと生活しております。まだ、目標が定まらず、集中できずにいる者も

就職難の時代の就職そのII

3学年主任 石崎 晃

3月1日の卒業式から10日後にめぐり巡ってきたあの震災。会津の地は何とか持ちこたえているようですが、中通り、浜通りと海に近いほど被害は大きくなっています。物理的に外に、精神面でも震災は起こっているのです。

さて、その震災と円高により、輸出を中心に成り立っている日本の産業も影響を受け、会津にもその余波は来ていることは明らかであります。県外もさることながら、地元における求人が少ないようです。「工業高校」の保証はなく、就職を希望する生徒にはなかなか厳しい状況ですが、全員が内定を得るには何から始めたらいのかが悩んだのも事実であります。

まず身だしなみの改善を図りました。服装・頭髪は芳しいものではありませんでした。企業の人事が見て高校生らしい姿にする指導を行いました。なぜ、校則を守らなければ

少なからず居ります。高校生活の折り返しとなった今、ひと頑張りできるよう、進路に向け実力を付けるよう頑張らせています。

学年の恒例行事である修学旅行は、9月8日から3泊4日間で、広島・大阪方面へ行きます。初日は、負の世界遺産の原爆ドームで平和学習を行い、2日目には、早朝に日本三景のひとつ安芸の宮島見学や平成の大改修中の姫路城内部構造を見学します。3日目は、班毎に大阪市内自主研修などを計画しています。現在、その準備に追われています。

就職や進学の参戦まであと1年となりました。学年として、中堅の意識と自己理解・現状把握を高めながら、3学年へ良い形で進級できるよう頑張らせたいと思います。

最後に、日本各地で活躍の同窓生の皆様におかれましては、現職場で、会工の若い力を採用いただけますよう、ご尽力をお願い申し上げます。

ならないかを言い続けながら、生徒たちにしつこく指導をしました。

生徒指導部や同窓会、PTAの協力もあり、少しずつ改善されてきました。次に勉強する姿勢を身につけさせるということです。漢字テスト・実力テストなども取り組み、学年独自の取り組みである就職用のドリルを使い、自主勉強させるなどを実施しました。その結果、勉強する姿勢が定着してきました。さらに、部活動の励行です。企業は「明るく元気でコミュニケーションができる生徒」を望んでいます。部活動を通じて人間関係の大切さを学ばせることをねらいました。

つまり、高校生活のそれぞれの分野で精一杯活動させることこそが、この求人難に立ち向かうための方策だと考えたわけです。担任6人が、この指導方針の下、足並みを揃えて取り組んでいます。この会工同窓会報が卒業の皆様に届く頃は、就職試験が始まっていることでしょう。

今年は昨年度以上に厳しい求人状況です。同窓会の皆様もぜひ求人にご協力をお願いいたします。

平和の覇者を育みぬ。

校歌から

学び舎



建築インテリア科

主任 池上 邦彦

東日本大震災の影響で先の不透明な状況もあり、建築インテリア科の生徒たちの進路も心配な平成23年度となりました。そんな中で建築インテリア科では、地域の復興を担い、社会に通用する人材の育成を目標に、日々教育活動を行っています。

本年は3月末と7月末に人事異動があり、鈴木康生先生が郡山北工業に、同窓生でもあった星義一先生が喜多方桐桜にしました。変わって福島工業から同窓生である鈴木武先生が、喜多方桐桜から以前にも本校に勤務していた高橋弘光先生が転動してきました。何かと困難なことが多い昨今ですが、我々7名が力を合わせて教育に取り組んでいきたいと思っています。



施工実習 鉄筋の組み立て

同窓生である白井設計様には白井所長をはじめ所員の方々にご指導頂き、取り組んだ生徒たちは見違えるほど力を付けることが出来ました。おかげさまで建築士会主催の建築甲子園では福島県代表となることが出来ました。生徒たちが取り組んだものをあげてみます。

道都大学高校生住宅設計コンクール 奨励賞
日本工業大学建築設計競技 中央工学校住宅設計競技
福島県高校生ものづくりコンテスト 等々です。また、2年生のインターンシップでは地元企業の方々、OBの方々に大変お世話になりました。



セラミック化学科

主任 村田 光夫

●セラミック化学科

今年度の人事異動では、元化学工学科の長崎敏秀先生が37年間の教員生活に別れを告げ、退職されました。セラミック化学という科名になつて今年で4年目。今春、セラミック化学科として初の卒業生を出すことができました。これからは地域に密着し、貢献する学科を目指していきます。

化学の知識をベースに伝統工

1 専門課程は、いま。

進路の面では地元に残る生徒も増え、地域の方々に貢献できているのではないかと思っています。今年度は昨年度にもまして厳しい状況ですが、100%の進路実現を目指して生徒たちもがんばっているところです。

厳しい社会状況の昨今ですが、様々な面で諸先輩方のご協力よろしくお願いいたします。

生涯から新素材の分野まで幅広く学習しています。地場産業の焼きものの伝統技を受け継ぎながら、ファインセラミックス・ガラス・化学製品全般の知識や技術を学びます。具体的には、茶碗、電子部品、環境セラミックス、色ガラス、人工骨、リサイクル石けんなどを実際に作り、分析・評価する体験的な学習をしています。

●生徒たちの活躍

昨年度のものづくり県大会では、化学分析部門において準優勝しました。2年連続優勝の後でフレッシュアのかかる大会ではありましたが、惜しくも1位とは数点の差で優勝を逃してしまいました。

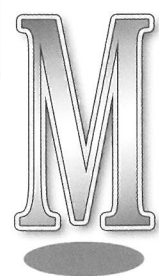
地域貢献活動でも生徒たちはがんばっています。5月末に開催された会津美里町主催のふれあい茶会では、2名の生徒がお客様の前でお茶を点てて振る舞いました。会津高校流ではありましたが、大変好評でした。また、8月開催の全国高等学校総合文化祭（ふくしま総文）では、マスコットキャラクターの「ベしゅ」を型取ったペーパーウェイト300個、とんぼ玉300個を来場者に無料配布しました。

た。さらには、毎年8月の第一日曜日に開催されている会津本郷せと市でも生徒作品販売を行い、わずか1時間程度で完売するほどの大盛況でした。

資格取得においても、危険物取扱者、QC（品質管理）検定などはもちろん、セラミック独特の検定にも多くの生徒が挑戦し合格しています。今年度から新設された全国セラミック教育研究会主催の第1回セラミック能力検定では40人の生徒が挑戦し、34人が合格しました。また、夏に行われる陶芸技能検定や冬に行われるろくろ技能検定などにも多くの生徒が積極的に挑戦しています。

●今年度の予定

10月末には、あいづドームで行われる会津ブランドものづくりフェアに今年度も参加する予定です。1月には、一般の人も対象としたろくろ技能検定が本校において行われる予定です。同じく1月に、今年度から新設予定の第1回陶磁器能力検定が行われる予定です。このように、たくさんの方々の協力によって、たくさんの方々の活躍が期待されています。これからもOB諸先輩方のご支援、ご協力をいただきながら進めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



機械科

主任 茂木 利幸



平成22年度末・平成23年度途中の人事異動により、安部克彦先生が喜多方桐桜高校（喜多方工業と喜多方商業が統合）へ転勤されました。小菅勇先生が福島工業高校へ、村上輝先生が白河実業高校へ、それぞれ転動されました。

替わって、新採用教員として吉田孝明先生が加わりました。平山賢実先生におかれましては、時間講師として引き続きご尽力をお願いすることになりました。そして、喜多方桐桜高校が

本校機械科へ渡部哲先生（機械科OB）、高橋浩二先生が加わりました。何とかよろしくお願い申し上げます。

一年一組の担任には益山心先生、二年一組の担任に国語の八巻勤先生、三年一組の担任には篠原宏和先生、四年一組の担任に体育の鈴木慎也先生、五年一組の担任に丹治一記の各応援を戴き指導にあたっています。

三年生の進路状況については、きびしい求人傾向にありましたが、それでも諸先輩方や進路指導担当の先生方等のご尽力により、機械科は100%内定することが出来ました。

3・11東日本大震災関連では、機械科実習棟の溶接実習室西側の窓枠一部が外側へ歪み、フライス盤実習室と旋盤実習室の上部ガラスが6枚破損しました。松江春秋様寄贈をはじめとして機械に破損はありません。

求人の方はひとまず置いて、この一年間機械科の生徒諸君は「ものづくり」の分野においても大活躍致しました。その素晴らしい健闘ぶりの一部を紹介致します。

○2010高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門の全国大会出場。2011高校生ものづくりコンテスト旋盤作業部門の東北大会優勝。全国大会へ向け特訓中。

○全国電動カート創作コンテスト2011 総合2位と5位。



電気科

主任 海和 寛



○福島県高校生ロボット競技大会（9月6日）に向けて鋭意製作中。

○ホンダエコノパワー燃費競技全国大会2010に2台十先生のカブ1台出場。

いずれの大会においても、機械科の生徒たちは熱心にもものづくりに取り組み、素晴らしい成績を残しております。これからも生徒たちが、ものづくりを通して研鑽を積むことができるように環境を整備し、職員一丸となって指導していきます。

人事異動により、金澤直人先生が白河実業高校へ転勤、本校情報技術科へ渡邊修先生が移動されました。後任として、喜多方桐桜高校より中野善司先生と鳴瀬良先生が電気科に加わり、電気科教員は六名です。また、一年電気科担任は櫛田古瀬先生

生、二年電気科担任は江本城幸先生（体育科）、三年電気科担任はわたし海和です。

昨年の主な内容は次のとおりです。

1 昨年の就職二十九名・進学九名

○就職者全員が、電気関係を中心とした工業に関する会社への就職が内定しました。就職者の内、公務員が二名です。進学では、四年制大学五名、電気系県立専門学校一名、企業の専修学校一名という状況です。

2 発電所見学・工場見学

○東北電力東新潟火力発電所

○東京電力猪苗代第二発電所

○北芝電機（福島市）・日本工営（須賀川市）

3 外部講師

①東北電力会津若松支社「発電所見学事前学習」

②東京電力猪苗代電力所「送電設備の維持管理」

4 ものづくり・大会等への取り組み

①福島県高等学校ロボット競技大会

②会津若松市主催のものづくり学園祭「電子工作」

③マイコンカーラリー福島県大会

④福島県高等学校ものづくりコンテスト「電気工部門」

⑤セミコンジャンプ出品「照明付ドライバ」⑥福島県発明展津南商工会議所会頭賞「照明付ドライバ」

資格取得では、第二種電気工事士三十六名合格、第一種電気工



情報技術科

主任 渡邊 修



事士五名合格など、資格取得にも力を入れて取り組んでいます。また、国家技能検定制度による3級技能検定電気機器組立て七名合格、同検定2級においては、福島県高校生として初の2名の合格者を出しました。その他、3級情報配線施工技能検定では、電気科において7名の合格者を出し、福島県高校生初の合格者になります。

以上のように、積極的に取り組んでいます。

情報技術科では、組み込み技術への取り組みを強化してまいりました。P・I・C制御実習を通して展開し、制御対象物を製作

しそれに対してパソコンでプログラミングを行い、マイコンに書き込み制御対象物が動作するかを確認するというサイクルで行っています。他の学習内容もアプリケーションソフトやツールソフト、プログラミングソフトの更新に伴い十分なものとなりました。プログラミング実習室内に情報技術科のインターネットサイトを開設。連絡事項、実習資料、各種検定過去問、課題研究資料等を取りまとめ掲載し、授業や放課後等において生徒たちが自ら学習する環境を整えています。

ものづくり大会などへの取り組み

・ジャパンマイコンラリー
平成二十二年十一月、ジャパンマイコンラリー福島大会が平工業高校で開催され、アドバンス部門に1台、ベーシック部門に3台が出場しました。

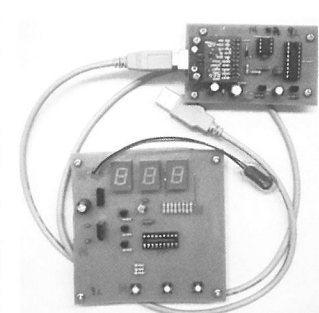
・第4回日本工業大学マイコンロボットコンテスト
平成二十二年九月、日本工業大学で開催され、入賞しました。

・会津ものづくりブランドフェア（会津若松市観光商工部）試験合格者

情報処理では、外部講師を用いた講習会など積極的に取り組み、多くの合格者を出すことができました。

《合格者数》

・1・2パスポート 2名
・基本情報技術者 1名
・パソコン利用技術検定 一級 10名



情報技術検定

二級	38名
三級	40名
一級	20名
二級	40名

写真 実習で制作したP・I・Cスロットマシン

奮るえや会工の健男児

陸上部

顧問 ◎宮田 智史
石崎 晃



学び舎 ロケーション ② 2011会工、鍛えの各部

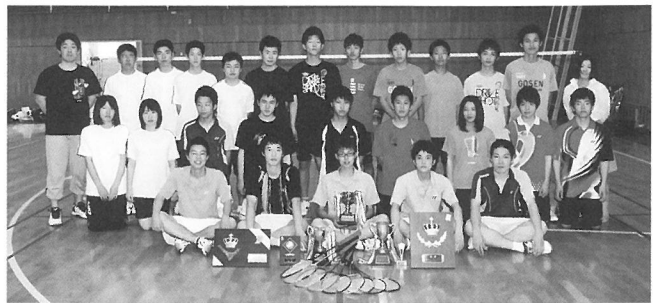
水泳部

顧問 ◎小沼 雄司
西村 典子



バドミントン部

顧問 ◎今野 信孝
白岩 香



卓球部

顧問 ◎小林 憲司
今川 吉晃



野球部

顧問 ◎八巻 勤
村山 彰一



山岳部

顧問 ◎熊田 尚
鶴巢 幸江



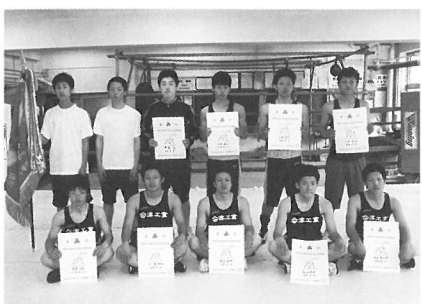
体操部

顧問 ◎加藤 義勝
佐藤 文康



ボクシング部

顧問 ◎篠原 宏和
高橋 弘光



剣道部

顧問 ◎田中 哲
吉田 孝明



バレーボール部(男)

顧問 ◎中島 徹
伊藤 明子



バスケットボール部

顧問 ◎鈴木 慎也
菊田 高史



空手部

顧問 ◎清水 裕二
村田 光夫



テニス部

顧問 ◎齋藤 正志
齋藤 修平



スキー部

顧問 ◎相原 正裕
茂木 利幸



柔道部

顧問 ◎榎田 古瀬
渡部 哲



バレーボール部(女)

顧問 ◎中島 徹
伊藤 明子



弓道部

顧問 ◎鈴木 敬介
渡邊 修



サッカー部

顧問 ◎江本 城幸
加藤 善範



ソフトテニス部

顧問 ◎玉川 誠
川井 勉



生活科学同好会

顧問 ◎西坂美穂子



部活動大会結果報告

建築インテリア部

顧問 ◎池上 邦彦
岩瀬 浩之



機械研習部(ロボット)

顧問 ◎茂木 利幸
丹治 一記



IT研究部

顧問 ◎鈴木誠一郎
山本 義文



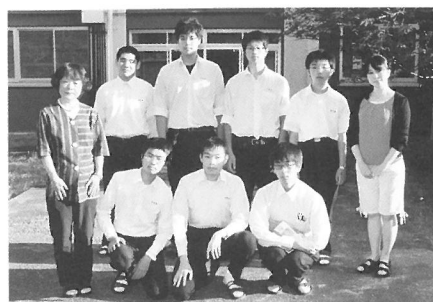
演劇部

顧問 ◎湯浅亜紀子
熊谷 好広



写真部

顧問 ◎田部 栄子
鈴木 智子



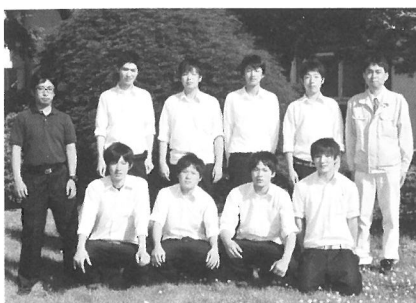
吹奏楽部

顧問 ◎益山 温心
高橋 温仁



電気部

顧問 ◎海和 寛
大塚 正幸



機械研習部(カト)

顧問 ◎丹治 一記
茂木 利幸



アマチュア無線部

顧問 ◎海和 寛



英会話部

顧問 ◎伊藤 順子



美術部

顧問 ◎丸山 弘樹
岩瀬 浩之



セラミック化学部

顧問 ◎村田 光夫
大演 達明



〈弓道部〉

男子団体 第二位
男子個人 優勝
飯塚 康大
三星 輝昭
土谷 昇平

〈剣道部〉

男子団体 優勝
男子個人 優勝
鈴木 光成
島影 翔斗
芳賀江緒里

女子個人

第三位 菅家 朋子
優勝 渡部 花菜
男子団体 優勝
男子団体総合 優勝

男子個人

第三位 鵜浦・安部組
ベスト8 舟田・東條組
菊地・山内組

〈野球部〉

優勝
第五十三回春季全会津高等学校野球
優勝

〈陸上部〉

男子 第二位 穴澤 光晴
走り高跳び 第三位 小西 圭佑
400mハードル 第四位 稲田 隆秀
三段跳び 第四位 鷺尾 望
男子 第八位 鷺尾 望

〈水泳部〉

男子団体 第二位
男子個人 第二位
400mメドレー 第二位
800mメドレー 第二位
男子個人 第三位
1500m自由形 第三位
50m自由形 第三位
100m自由形 第三位
200m自由形 第三位
400m自由形 第三位
100mバタフライ 第三位
100m背泳ぎ 第三位
100m平泳ぎ 第三位
200m個人メドレー 第三位
400m個人メドレー 第三位
100mバタフライ 第三位
100m背泳ぎ 第三位
100m平泳ぎ 第三位
200m個人メドレー 第三位
400m個人メドレー 第三位

〈バレーボール部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈バスケットボール部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈サッカークラブ〉

男子 優勝
女子 優勝

〈ハンドボール部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈バドミントン部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈テニス部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈卓球部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈柔道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈空手道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流空手道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流新当流部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流合気道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流柔術部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流剣道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流杖道部〉

男子 優勝
女子 優勝

〈少林寺流居合道部〉

募金総額 1 6 5 万 2, 0 0 0 円以上 8 2 6 件

[illegible]

二 鶴 東 丹 玉 高 白 佐 佐 佐 佐 斎 後 小 小 小 小 郡 熊 久 北 菊 河 風 小 小 及 榎 井 稻 石 石 猪 荒 新 赤 青 青
瓶 巢 條 治 川 橋 岩 藤 藤 藤 竹 藤 藤 林 林 滝 関 司 田 家 原 地 戸 間 島 川 川 本 上 田 山 井 狩 川 井 城 津 井
徳 幸 元 慶 孝 善 寛 重 重 文 昭 彦 榮 正 良 克 正 壽 利 眞 喜 利 岩 洋 盛 信 久 次 文 茂 良
昌 江 憲 安 誠 一 一 久 修 郎 男 幸 夫 修 洋 市 助 孝 治 士 三 雄 家 一 一 滋 彌 雄 文 夫 一 夫 夫 江 郎 一 直 勝

[illegible]

田室武黒芦渡吉室押石横仙齐渡渡渡若六吉山山本村三松本保古坂半八長蓮橋芳根
崎井田川沢部村井山田田波藤邊部部菜角田本田吉越原井田志畑河内澤卷沼沼本沼本
弘忠信 邦美 登貞孝重五 雅光靖弘一清 タキ保敏 和一憲磐 茂恒 道陽平
平六孝尚男好淳要喜男夫一雄郎修宏昭正彦文榮三登 寿男丘穀吉男治雄浩雄一健雄一造

24 23 21 20 20 18 18 16 16 61 61 61 40 38 36 36 36 35 35 35 33 33 33 33 33 32 32 31 31 31 31 29 29 29 29 28 26
L L L L L L L L L T

保唐鵜山影大田寺吉諸堀鈴中增加梅村福荒荒螻相岡石藤浅渡平鈴江荒蓮荒山相中蓮
志橋川田原山村崎崎田橋底木島井藤津岡田明川川馬崎田沼沼部山木川井沼木口田島沼
昭広平四五信勇和秀義憲勉輝弘光耕英高嘉美早力榮靖一義
一美郎登薫郎繫篤保治浩弘満忠治三行喜司榮勉大一司志典幸苗充夫尊吉卓夫誠夫昭健

[illegible]

山佐桜和清佐風上五永星星鈴加小佐渡大大芳棚木星高石樋渡戸須折皆齊鈴鈴宮吉七阿
本藤井泉水藤間野嵐嶺田木藤山藤部山堀賀木村橋橋口部田藤笠川藤木山野川海部
俊達実健守す眞博敏薫悦省隆敬光節紀光勉一輝常義龜代
郎夫喜男司男え一史勲充典夫衛男次功一宏雄洋介護淳實博好弘男雄助弘男男雄弘昭次隆

[illegible]

二佐國岸薄山古福渡佐加植千鈴小石山室鈴生高鈴大遠渡宮大岸兼田高吉渡上井渡目岡
 々々井井本川地部藤藤村葉木林井岸井木沼木木賀藤部崎沢子川羽田部野上部黑崎
 瓶木井井本川地部藤藤村葉木林井岸井木沼木木賀藤部崎沢子川羽田部野上部黑崎
 勝貞宗次征貞敬芳雄利孝久源正利俊忠幸弘昭欣與芳一節竜洋昭一由
 利賢義男稔男一義守之實謙造雄敬夫次男圀正雄二登博稔男道吾三咲満榮夫雄文太郎泉香

Wataru Hokoyama

♩ = 112

Vocal

1. あ お ぐ は ん だ い あ れ の ぼ こ う
2. か ぜ え き め ね て あ い と め か れ
3. い ぞ ゐ こ こ す む げ ん に ひ 3 く

5
い ま 永 い め - い - の お も い - あ S た に - じ
あ せ と な み - だ - と お う じ ゅ - は く み - さ
ち え を し - あ - い め ぜ を - み が い - さ

9
あ - す す も - う よ し - ん り - も と め て - せ い
あ - か た S - う よ あ - す を - み つ め て - せ い
あ - つ く る - う よ め - め を - か た ち に - せ い

13
し ゃ ん か が や け - か い じ ゅ さ め や か に - -
し ゃ ん か が や け - か い じ ゅ う つ く し く - -
し ゃ ん か が や け - か い じ ゅ た く ま し く - -

会工賛歌（創立百周年記念歌）

二、
数ええきぬ 出合いと別れ
汗と涙と 友情はくくみ
さあ語ろうよ 明日をみつめて
青春かがやけ 会工をつくしく

作詞 会工高・100周年記念事業
実行委員会

作曲 Wataru Hokayama
（鋒山 亘）

一、
おおむ 磐梯 われらの母校
いま黎明の 思い新たに
すすむ 真理もとめて
さあ創ろうよ 夢をかたちに

三、
挑むところ 無限に広く
知恵を出し合い 技をみがいて

2011 職員人事

お世話になりました。

◆ 転出者

➡ 輸出先

◆ 転入者

前任校

[illegible]

地 区	役 職	名 前	卒業年	
東 京	会 副	長 荒岡金	34 K	
	会 幹	井 島子	29 C	
	幹 副	文 正昭	32 A	
	幹 副	綿 賀藤中	35 A	
	幹 副	勝 孝健	34 T	
	幹 副	邦 義行	35 L	
	幹 副	一 男彦	38 M	
	幹 副	武 輝雅	40 M	
	幹 副	俊 清昭	34 K	
	幹 副	池 木進	44 M	
	幹 副	清 昭男	34 T	
	幹 副	猪 俣川	41 T	
	幹 副	五 藤田	33 K	
	幹 副	齋 藤博	37 K	
	幹 副	山 田正	43 K	
	幹 副	高 武廣	44 K	
	幹 副	北 秋政	47 K	
	幹 副	中 秋重	47 K	
	幹 副	水 岡利	31 C	
	幹 副	堀 田政	41 G	
	幹 副	川 部強	46 M	
	幹 副	瀬 雅弘	36 E	
	幹 副	一 芳則	43 T	
	東 海	相 談	役 川 部	23 T
		顧 名	佐 星	26 E
		會 長	星 笠	26 E
		會 副	平 鈴	35 A
幹 副		酒 中喜	31 T	
幹 副		羽 入夫	31 T	
幹 副		星 野喜	29 E	
幹 副		安 村勝	30 E	
幹 副		西 敏雄	31 A	
幹 副		正 幹	33 K	
幹 副		春 樹敏	31 T	
幹 副		正 春	41 M	
幹 副		春 樹	41 A	
幹 副		樹 敏	41 G	
幹 副		強 男	45 A	
幹 副		栗 康	48 M	
幹 副		田 幸	30 K	
幹 副		沼 美	44 A	
幹 副		森 俊	32 T	
幹 副		福 貞	35 T	
幹 副		川 兵	31 K	
幹 副		湯 浅	34 T	
幹 副		武 内	36 E	
幹 副		山 小	36 T	
幹 副		大 竹	37 A	
幹 副		小 渡	40 L	
近 畿		幹 副	佐 安	44 M
	幹 副	安 渡	56 M	
	幹 副	長 役	58 A	
	幹 副	會 長	31 E	
	幹 副	大 石	26 C	
	幹 副	遠 小	31 C	
	幹 副	安 真	39 E	
	幹 副	荒 細	41 K	
	幹 副	近 秋	42 T	
	幹 副	信 酒	35 K	
	幹 副	大 吉	37 T	
	幹 副	吉 坂	31 T	
	幹 副	若 藤	34 M	
	幹 副	藤 渡	23 T	
	幹 副	小 栗	29 C	
	幹 副	白 伊	33 K	
	幹 副	伊 藤	35 A	
	幹 副	林 森	39 A	
	幹 副	井 島	36 C	
	幹 副	内 狭	20 K	
	幹 副	狭 村	38 K	
	幹 副	村 干	40 E	
	幹 副	山 城	30 E	
	幹 副	井 白	32 K	
	幹 副	林 正	38 A	
	幹 副	森 昭	41 M	
	若 松	幹 副	充 正	22 L
幹 副		正 清	25 A	
幹 副		清 昭	28 A	
幹 副		昭 充	28 A	
幹 副		充 正	28 A	
幹 副		正 清	28 A	
幹 副		清 昭	28 A	
幹 副		昭 充	28 A	
幹 副		充 正	28 A	
幹 副		正 清	28 A	

[illegible]

地区	役職	名前	卒業年
津美里会	幹事	水野	39 K
	幹事	野木	45 D
	〃	俊俊	48 K
	〃	村中	50 K
	〃	野子	49 A
	〃	荒井	40 G
	〃	荒井	31 A
	〃	荒井	39 K
	〃	荒井	28 A
	〃	荒井	24 A
建友会	〃	佐久間	32 A
	〃	久松	33 A
	〃	山崎	38 A
	〃	山崎	41 A
	〃	山崎	39 A
	〃	山崎	40 A
	〃	山崎	45 A
	〃	山崎	43 A
	〃	山崎	44 A
	〃	山崎	54 A
電友会	〃	山崎	51 A
	〃	山崎	55 A
	〃	山崎	48 A
	〃	山崎	51 A
	〃	山崎	27 E
	〃	山崎	28 E
	〃	山崎	29 E
	〃	山崎	30 E
	〃	山崎	31 E
	〃	山崎	36 E
機友会	〃	山崎	29 E
	〃	山崎	31 E
	〃	山崎	34 E
	〃	山崎	34 E
	〃	山崎	30 E
	〃	山崎	31 E
	〃	山崎	40 E
	〃	山崎	36 E
	〃	山崎	37 E
	〃	山崎	32 M
セウ友会	〃	山崎	41 M
	〃	山崎	42 M
	〃	山崎	42 M
	〃	山崎	32 M
	〃	山崎	55 M
	〃	山崎	52 M
	〃	山崎	33 M
	〃	山崎	45 M
	〃	山崎	47 M
	〃	山崎	43 M
美修会	〃	山崎	55 M
	〃	山崎	47 M
	〃	山崎	58 M
	〃	山崎	20 K
	〃	山崎	32 K
	〃	山崎	34 K
	〃	山崎	20 K
	〃	山崎	21 K
	〃	山崎	29 K
	〃	山崎	29 K
日立電工	〃	山崎	33 K
	〃	山崎	34 K
	〃	山崎	32 K
	〃	山崎	32 K
	〃	山崎	33 K
	〃	山崎	34 K
	〃	山崎	37 K
	〃	山崎	32 K
	〃	山崎	41 K
	〃	山崎	31 L
立電工	〃	山崎	31 L
	〃	山崎	42 L
	〃	山崎	41 L
	〃	山崎	55 L
	〃	山崎	61 L
	〃	山崎	51 L
	〃	山崎	54 L
	〃	山崎	45 L
	〃	山崎	54 L
	〃	山崎	26 M
三菱製鋼	〃	山崎	48 C
	〃	山崎	46 E
	〃	山崎	48 C
	〃	山崎	49 C
	〃	山崎	48 C
	〃	山崎	49 C
	〃	山崎	48 C
	〃	山崎	49 C
	〃	山崎	48 C
	〃	山崎	49 C

(平成 23 年 9 月現在)

A A J J J D D D D D D D D D D D D D D D D D E E E E E E E E E E E E E E

遠鈴熊長大佐小渡松板菊影白藤後浅小山角石古芳伊上佐熊横佐野豊皆内浅田白渡荒星
藤木谷川澤藤山邊島橋地山岩野藤井林本田本川賀藤野藤坂田木中島川川田中石辺井

兵信昌 郁賢奎壽良哲通恒秀康 滿光治 南海祥 史昌壽洋敏義 健元恒正陽
貢三介広允聡朗修一郎雄智夫敬美人世哲之男平博夫平剛隆仁人勝郎幸則誠一隆雄喜一

[illegible]

佐佐 笠五 伊堀 須鈴 沢大金 小飯 柳羽 成角 酒兼 大望 鈴鈴 渡杉 渡林 手代 佐坂 小五十 真樋 東大 山竹
藤 藤 間 風 藤 井 藤 木 里 竹 子 椋 沢 川 入 田 田 井 子 塚 月 木 木 部 本 部 木 藤 本 林 風 鍋 山 條 竹 口 島
健 健 忠 昭 友 清 利 恒 勝 昌 義 建 武 辰 新 兼 德 稔 道 次 次 保 紹 利 要 正 幸 幸 武 六 行
司 一 英 夫 久 治 夫 雄 人 治 輝 昂 一 久 嘉 求 作 三 嗣 勇 夫 利 清 夫 雄 男 雄 夫 三 男 清 雄 意 剛 資 信 郎 雄

[illegible]

杉橋渡遠鈴君菊鈴白玉永小坂渡河大阿鈴白佐山三星阿高梅淺二酒梅矢岡大本本永田早
原本部藤木島地木井川島^{小檜}内辺野竹部木井^々木岸井部橋宮坂瓶井宮部部竹間多井中川
史正美正和雅隆寿榮政正良吉武厚正和久幸修^{五男}憲公詮克祥
康晋稔一保彦彦昭勤宣治勲勝男行人吉雄男志清春武滉寛広登雄衛昭身^生市明和哉一徹

[illegible]

稻	横	古	秩	鈴	新	三	木	五	伊	五	渡	渡	佐	管	秋	渡	古	長	鈴	佐	笠	今	室	鈴	生	高	鈴	遠	七	佐	和	村	上	佐	安		
村	山	川	父	木	城	瓶	村	藤	藤	風	部	部	像	竹	山	部	川	谷	木	木	間	井	井	木	沼	木	木	賀	藤	海	藤	泉	井	野	藤	西	
嘉	英		安	保						隼	英	忠	健	重	洋	利	健		雅	幸	祐		恒	正	利		俊	忠			健	信	博	清	克		
修	夫	美	清	信	男	實	孝	茂	博	夫	敏	義	治	男	男	喜	彦	敬	之	彦	善	忠	雄	男	圀	正	雄	三	登	博	次	夫	司	義	史	隆	仁



ご協力ありがとうございました
来年もよろしく
お願い致します

昭 63 分 K	昭 46 分 K	昭 44 分 K	昭 35 分 K	昭 35 分 K	昭 35 分 K	昭 34 分 K	昭 31 分 K	昭 31 分 K	昭 24 併 E	昭 24 併 E	昭 24 併 E	昭 24 併 E	昭 24 併 E	昭 24 併 E	昭 24 併 E	昭 24 併 E	昭 23 併 E	昭 23 併 E	昭 23 併 E	昭 23 併 E	昭 23 併 E	昭 23 併 E	昭 24 併 M	昭 24 併 M	昭 24 併 M	昭 24 併 M		
田	菅	中	宮	星	古	安	植	伊	松	星	長 谷 川	新 井 田	田	佐	清	佐	栢	吉	森	平	指	管	遠	江	塚	玉	佐	佐
勢	家	村	下		川	達	村	藤	下				中	野	瀬	森	田	山	塚	出	家	藤	川	原	川	藤	藤	
良			一			保	貞			慎	武	儀	吉	和	幸				文	建	忠	文	一	辰	友	芳	文	
房	仁	勇	久	雄	子	隆	光	正	夫	武	二	男	一	男	彦	忠	敏	雄	敏	雄	男	平	夫	正	一	春	也	夫

編集後記

今年は何かと東日本大震災の話題が多い年です。福島県内外を問わず、被災された方々にお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。また、会工卒業の皆様の中で、原発関係を含め震災復興に携わる皆様に心から敬意を表したいと存じます。

ところで、今年も会報原稿にご協力下さいました卒業生の皆様、ご多忙の中ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

この会報がご卒業された皆様に届く頃、平成23年度の会津米が無事に食することが出来るよう祈らずにはいられない心境です。

同窓會會報編集委員

木村	洋一	(昭50 K卒)
江花	光泰	(昭31 L卒)
渡部	昭寿	(昭34 E卒)
田勢	光夫	(昭51 A卒)
中丸	淳	(昭55 K卒)
大濱	達明	(昭55 K卒)
加藤	義勝	(昭56 L卒)
鍋巢	幸江	(昭58 M卒)

会工同窓会本部役員

平成23年9月現在

顧問 吉田一榮 20 K 会津若松市
会長

副会長 若狭春生 38 K 会津若松市

荒井士郎 34 K 神奈川県川崎市

小山源昭 38 A 会津若松市

幹事長 山岸 清 41 A 会津若松市

副幹事長 藤田晴史 40 E 会津若松市

荒川富士雄 43 M 会津若松市

木村洋一 50 K 会津若松市

幹事 江花光泰 31 L 会津若松市

小林憲一 31 E 会津若松市

佐藤松夫 33 K 会津若松市

根本一雄 36 E 会津若松市

梨子本傑 41 K 会津若松市

長谷川利彦 41 K 会津若松市

佐藤義之 42 M 会津若松市

石田 功 43 G 会津若松市

菊地寿雄 48 D 会津若松市

坂内美佐子 50 C 会津若松市

菅原正晴 51 A 会津若松市

伊東幸治 53 C 会津若松市

佐藤 満 56 A 会津若松市

渡部恵千子 平 D 会津若松市

五十嵐昭夫 35 A さいたま市

三井正春 41 A 愛知県刈谷市

小林清治 43 T 京都府京都市

浅田 誠 43 E 会津若松市

藤沼嘉典 32 T 郡山市

神田信之 31 M 福島市

猪俣勇一 43 G 会津坂下町

長谷川与一 40 E 猪苗代町

小島淳一 41 M 西会津町

佐野常雄 31 E 湯川村

荒井誠一 49 A 会津若松市

鈴木安太郎 31 E 会津若松市

菊地登貴雄 52 M 会津若松市

齋藤四志男 34 K 会津若松市

風間真一 45 L 郡山市

番場幸雄 49 C 会津若松市

山口栄喜 46 E 会津若松市

五十嵐慧夫 26 M 茨城県日立市

田部一徳 48 C 磐梯町

関井信平 46 D 会津若松市

計 岩淵浩之 54 L 会津若松市

中丸 淳 55 K 会津若松市

監事 手代木徳夫 28 E 会津若松市

坂内茂男 32 K 会津若松市

関場一宏 33 K 会津若松市

参与 根本一雄 36 E 会津若松市

笠間忠英 35 A 愛知県名古屋

大竹文夫 31 C 京都府精華町

金田 寛 21 M 郡山市

星 武 27 E 福島市

五十嵐一夫 43 A 会津坂下町

荒井 久 18 T 郡山市

菅沼淳一 36 E 猪苗代町

鈴木 仁 21 M 西会津町

菅沼章生 29 C 湯川村

横山嘉夫 26 M 会津若松市

西村一夫 31 E 会津若松市

栗城和夫 41 M 会津若松市

渡部洋子 32 K 会津若松市

白井 充 42 L 会津若松市

中丸 淳 55 K 会津若松市

岩淵浩之 54 L 会津若松市

加藤義勝 56 L 会津若松市

田中 哲平 46 会津若松市

渡邊 修平 40 会津若松市

玉川 誠 47 M 会津若松市

渡部 哲 52 M 会津坂下町

大濱達明 55 K 会津若松市

鶴巢幸江 58 M 会津若松市

伊藤明子 平 J 会津若松市

鈴木 武平 12 A 会津若松市

本部会工同窓会総会の開催についての御案内

拝啓 会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さてこのたび、下記により本部会工同窓会総会を開催いたしますので、御多用のところ恐縮に存じますが、同窓諸氏をお誘いあわせのうえ、御出席くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

1 日 時 平成23年10月15日(土)

(1)本部会工同窓会総会 午後4時

(2)懇親会 午後5時半

2 場 所 ホテルいづみや 会津若松市南千石町6-35 御薬園前 TEL:0242-27-5538

3 懇親会費 5,000円(新卒者は2,000円)

※出席のご返信を10月4日(火)までお願いできれば幸いです。

尚、参加の申し込みは、会津工業高校 事務局:中丸 淳までご連絡下さい

TEL:0242-27-7456 FAX:0242-29-1992(同窓会専用)

※送迎バスがあります。

会津若松駅15:15→神明通り→会工→いづみや 帰りは逆順です。

若松会工会の開催について

平成23年10月15日(土)午後3時より 場所:ホテルいづみや

学校創立110周年記念式典 24年10月開催されます